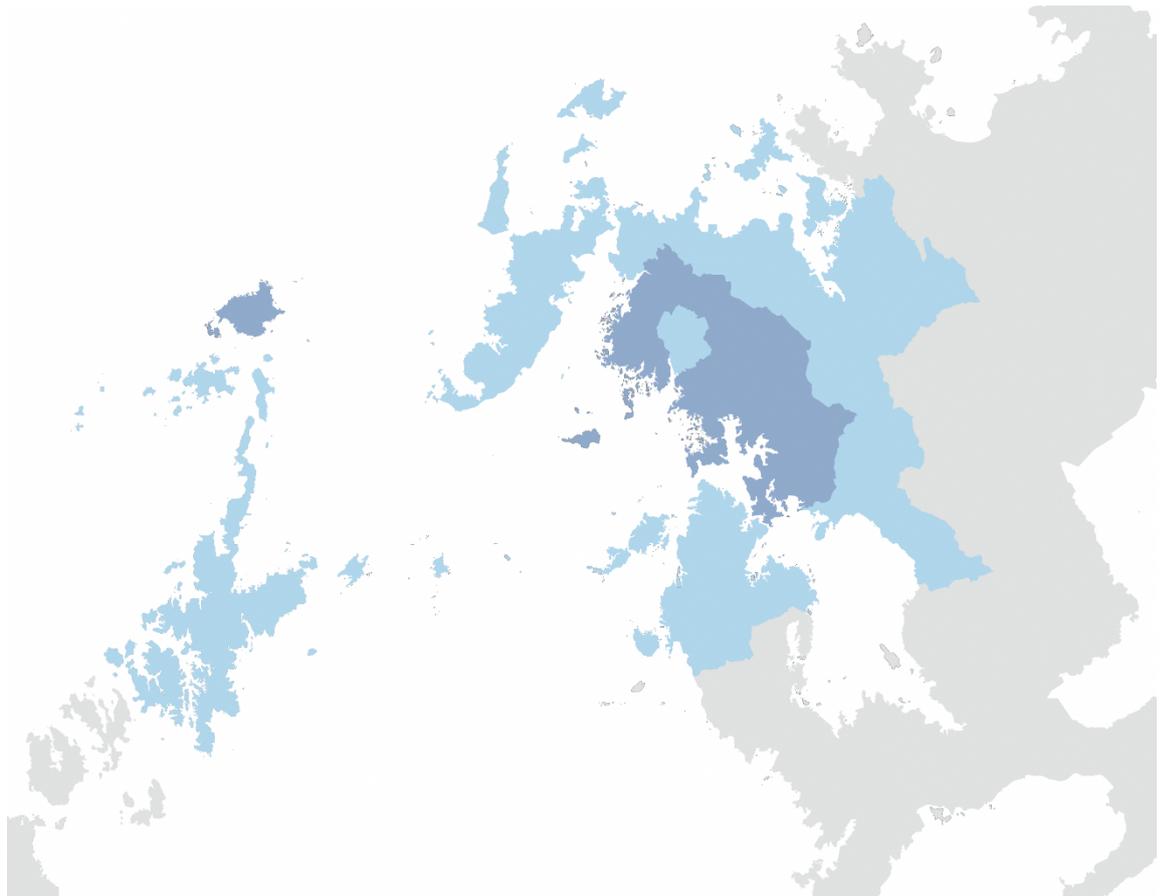


SINCE2019 



# 西九州させぼ 広域都市圏ビジョン





## 目次

<b>I 都市圏ビジョンの概要</b> .....	1
1 策定の趣旨 .....	1
2 連携中枢都市圏の名称・構成自治体 .....	2
3 計画期間 .....	2
<b>II 圏域の現状</b> .....	3
1 西九州させぼ広域都市圏と構成自治体の概要 .....	3
2 圏域の人口動態 .....	16
3 圏域の産業の状況 .....	21
4 圏域の都市機能の集積状況 .....	35
<b>III 西九州させぼ広域都市圏の将来像</b> .....	43
1 目指す将来の姿 .....	43
2 将来の圏域人口の目標 .....	43
 (別冊)	
<b>IV 将来像の実現に向けた具体的取組み</b>	
1 施策体系	
2 重要業績評価指標 (KPI)	
3 推進する具体的取組み	
(1) 圏域全体の経済成長のけん引	
(2) 高次の都市機能の集積・強化	
(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	
4 県による助言及び支援	

## I

## 都市圏ビジョンの概要

## 1

## 策定の趣旨

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、我が国の総人口は、平成27年（2015年）国勢調査時点の約1億2,700万人が、長期の人口減少過程の中で、平成52年（2040年）年には約1億1,100万人、12.6%の減少となり、65歳以上の老年人口の割合は35.34%となり、人口減少、少子高齢の急速な進展が見込まれています。

本圏域でもこの傾向は顕著で、平成27年（2015年）国勢調査における圏域12市町の人口約48万8,000人が、令和22年（2040年）には約37万人、24.2%の減少となり、老年人口の割合も平成27年（2015年）国勢調査時点で30.7%だったものが、令和22年（2040年）には37.7%になると見込まれています。

このような人口減少、少子高齢化の進行は、我が国全体の活力の低下や、経済規模の縮小を招き、地方においては地域経済の急激な活力低下、地域社会の衰退が懸念される一方、社会保障費などの増大によって、行政サービスを持続的、安定的に提供できなくなるという現実的かつ具体的な課題に直面することになります。

このようなリスクに対しては、行政区域の枠を超え、社会的、経済的に関係性のある自治体と横の繋がりを築き、医療や交通、産業といった分野において、行政サービスや都市機能を効率良く活用しながら、地域の社会・経済を支えていくことが重要となります。

そして、このような社会の構造的転換には相当の時間が必要となることから、これらに係る取組みは出来るだけ早くスタートさせることが肝要であり、この取組みを着実に進めることによって、厳しい財政状況を支える地域経済の活性化や、首都圏への人口一極集中といった都市部への人口流出に歯止めをかけ、地域に人を滞留させていくことが可能になると考えられます。

一方、国においても、地域で相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する「連携中枢都市圏構想」が進められており、国の諮問機関である第31次地方制度調査会の中でも、自治法改正により新たに設けられた連携協約をはじめ、事務の共同処理の仕組みを活用して地方公共団体間の広域連携を推進していくべきとの答申がなされています。

今般、長崎県佐世保市、平戸市、松浦市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、佐々町、新上五島町、佐賀県伊万里市及び有田町の12市町は、国が提唱する「連携中枢都市圏構想」の趣旨や、今後訪れる課題への危機感を共有した中で、将来に向けた地域経済・社会の一体的かつ持続的発展を図るため、佐世保市を中心市とする「西九州させば広域都市圏」の形成に取り組むこととしました。

この「西九州させば広域都市圏ビジョン」は、西九州北部地域等の各自治体が行政区域の枠を超え、様々な分野で相互に強みを伸ばし、弱みを補完しながら圏域全体を活性化していくための方向性を示し、今後の具体的な取組みを推進していくための中長期的な広域計画として策定するものです。

## 2 連携中枢都市圏の名称・構成自治体

## (1) 連携中枢都市圏の名称

「西九州させば広域都市圏」

※以下、本ビジョンでは西九州させば広域都市圏を「圏域」という。

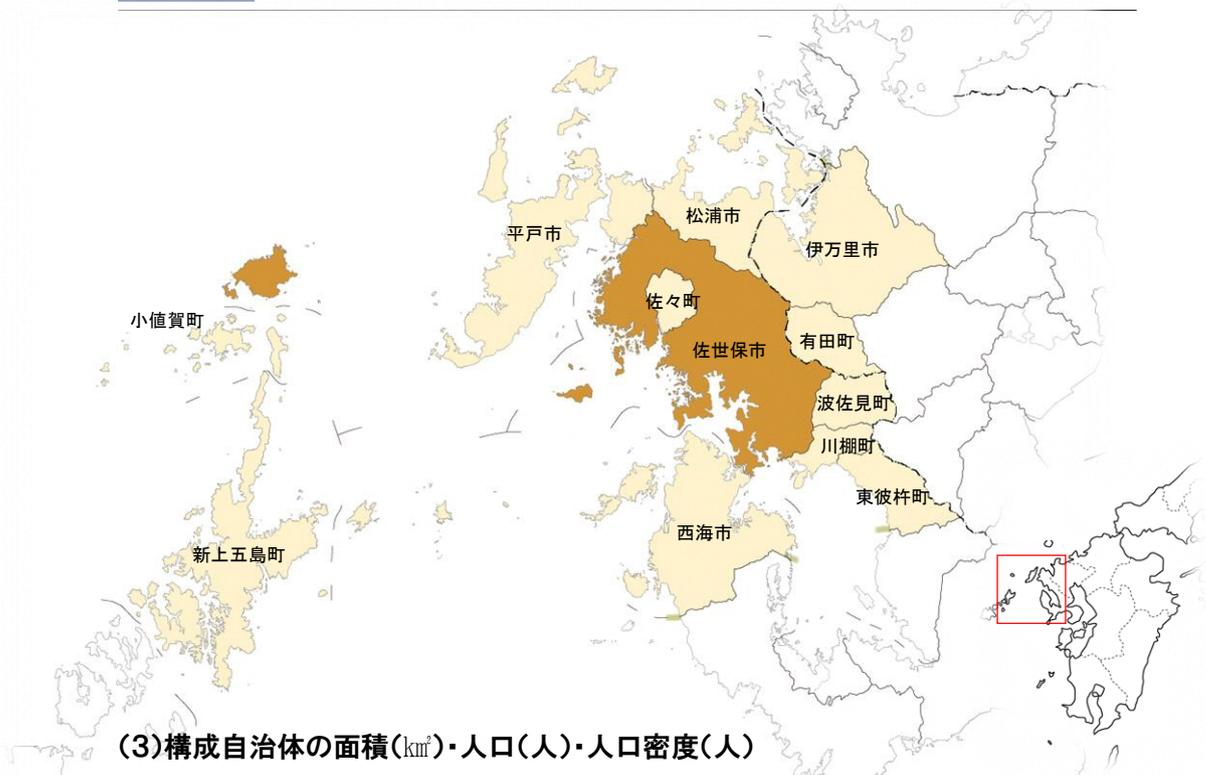
## (2) 連携中枢都市圏の構成自治体 【合計5市7町】

長崎県

佐世保市（連携中枢都市）、平戸市、松浦市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、佐々町、新上五島町

佐賀県

伊万里市、有田町

(3) 構成自治体の面積(km<sup>2</sup>)・人口(人)・人口密度(人)

	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
面積 (2018年)	426.06	235.10	130.55	241.60	74.28	37.25	56.00	25.50	32.26	213.99	255.25	65.85	1,793.69
構成比	23.8%	13.1%	7.3%	13.5%	4.1%	2.1%	3.1%	1.4%	1.8%	11.9%	14.2%	3.7%	100.0%
人口	255,439	31,920	23,309	28,691	8,298	14,067	14,891	2,560	13,626	19,718	55,238	20,148	487,905
人口密度	600	136	179	119	112	378	266	100	422	92	216	306	272

(出典) 2019年全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)、「平成27年国勢調査」

## 3 計画期間

計画期間は、2019年度から2023年度までの5年間とします。(※毎年度所要の変更有り)

## III

## 圏域の現状

## 1

## 西九州させぼ広域都市圏と構成自治体の概要

## (1)西九州させぼ広域都市圏の概要

本圏域は九州北西部に位置し、古くから連綿と人が住み続けてきた地域です。

洞穴遺跡の数は日本一であり、世界最古級の豆粒文土器が出土しています。

また、大陸との交流も盛んで、数多くの大陸文化との融合の形跡が確認されている地域です。

戦国から江戸時代においては、本地域に海を舞台として活躍した松浦党が出現し、その流れを汲む平戸松浦氏による平戸藩6万3千石の領地として存続してきました。

五島地域においては、平家に連なる平家盛を始祖にもつとの伝説を有する五島家による統治が行われ、捕鯨などにより栄える一方、潜伏キリシタンによる開拓などが有名です。

また、近年では、世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」や、長崎・佐賀両県に跨る日本遺産である「肥前窯業圏」、そして、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟認定された九十九島等、数多くの魅力ある地域資源を有しています。

産業面でも国内有数の漁獲量を誇る水産業や、農業においてもお茶、みかん、肉用牛等の産地であるとともに、歴史のある造船業等、工業・商業分野でも多様な産業が集積しています。

これらを育んできた豊かな大地は地震が少なく、自然災害に強い土壌と気候に恵まれており、私たちの安全な暮らしを支えています。

## (2)構成自治体の概要

## 1



## 佐世保市

【連携中枢都市】

面積：426.06km<sup>2</sup> 人口：255,439人（平成27年国勢調査）

佐世保市は、圏域の中央部、長崎県の北部に位置し、面積約426 km<sup>2</sup>、人口約25万人を有する都市です。

明治22年に海軍佐世保鎮守府が設置されて以降、戦前は海軍とともに発展し、戦後は平和産業港湾都市として、造船や炭鉱を柱とした産業の発展を経て、現在は、長崎県県北地域、佐賀県西部地域の中心的都市となっており、平成28年4月に中核市へ移行しました。

また、大小208の島々が織りなす美しい景観を誇る多島海「西海国立公園九十九島」、「世界遺産」、日本最大級のテーマパーク「ハウステンボス」、日本遺産に認定された「佐世保鎮守府」や「三川内焼」を有する観光都市であると同時に、みかんや牡蠣等の農水産物にも恵まれ、また、造船をはじめとした製造業や、日本一長いアーケードに商業機能が集積する産業都市でもあります。

市内には米軍基地があり、また、広範囲な地域から人が流入して成長した都市であることから市民は多様性に富んでいます。

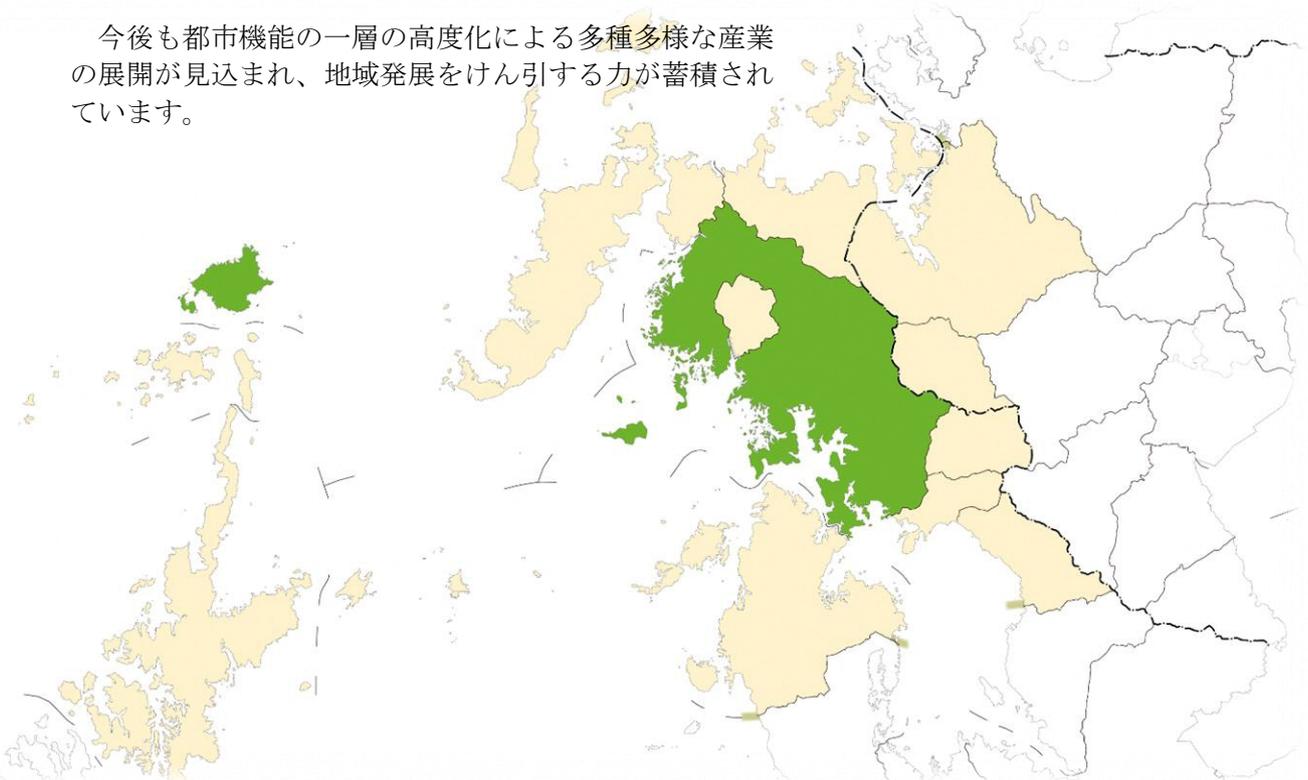
今後も都市機能の一層の高度化による多種多様な産業の展開が見込まれ、地域発展をけん引する力が蓄積されています。



西海国立公園九十九島



©ハウステンボス



## 1 西九州させぼ広域都市圏と構成自治体の概要

# 2 平戸市

面積：235.10km<sup>2</sup> 人口：31,920人（平成27年国勢調査）

平戸市は、圏域の北西部、長崎県の北部に位置し、面積約235 km<sup>2</sup>、人口約3万2,000人を有する都市です。

古くから大陸交流の玄関口として栄え、平安時代から中国や朝鮮との交易の中継地となり、遣隋・遣唐使の寄港地として栄えました。また、中国で新しい仏教を学んだ空海や栄西なども立ち寄った場所でもあります。

16世紀には、日本に初めて来航したポルトガル船が平戸に入港し、南蛮貿易が行われました。17世紀前半には、オランダやイギリスの商館が設置されるなど海外文化やキリスト教伝来の窓口となり、市内には田平天主堂、宝亀教会など14の教会が存在します。

生月地区や大島地区には捕鯨で栄えた歴史があり、江戸時代後期には益富組、井元氏鯨組など西海捕鯨の中心地として名を馳せ、特に生月地区の益富組は日本最大の規模に達しました。

長崎県内でも有数の観光地として知られ、年間約175万人の観光客が訪れています。また、平成30年7月に世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のうち、構成資産である「平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳、中江ノ島）」を有しており、国内外からの観光客の増加が見込まれます。

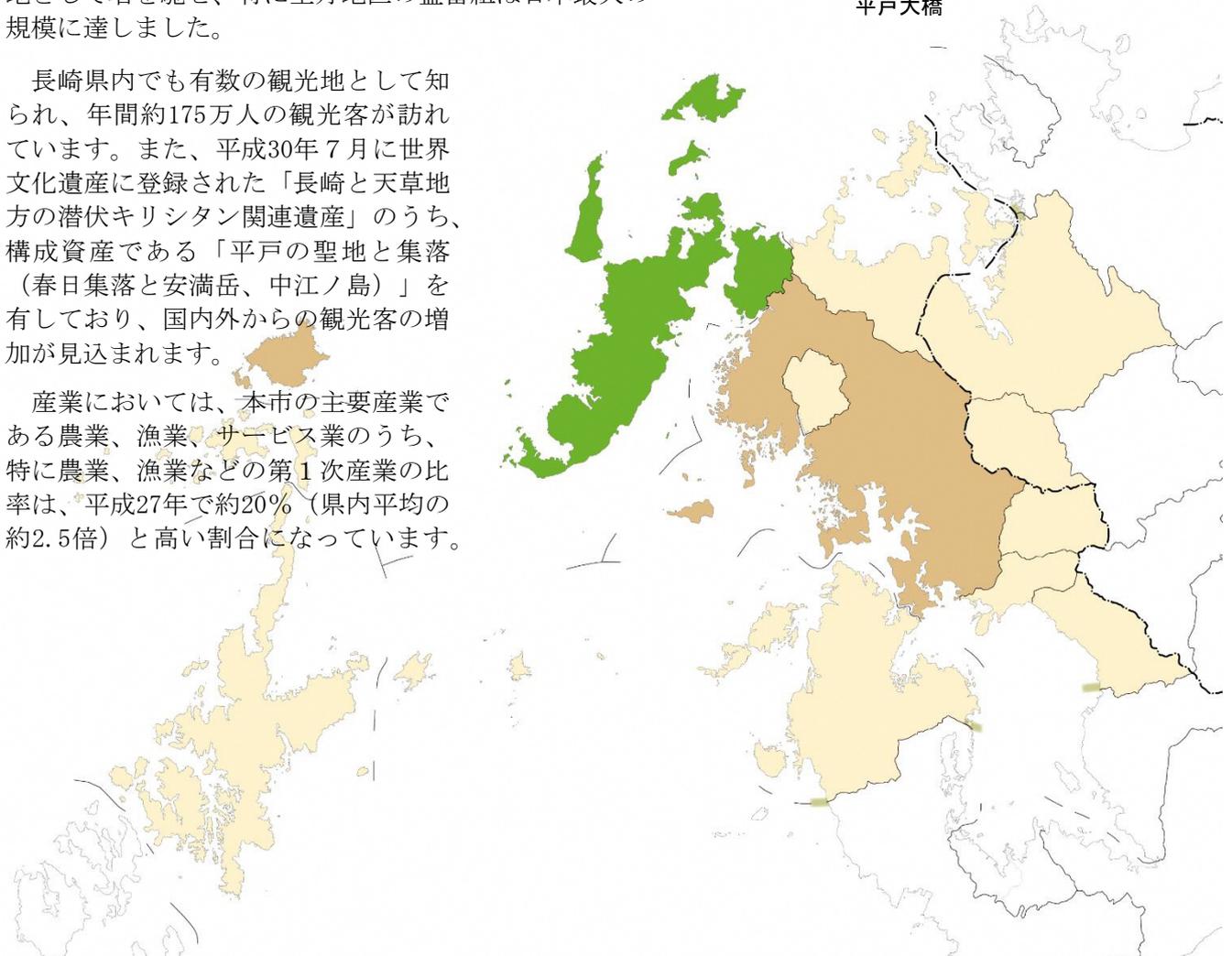
産業においては、本市の主要産業である農業、漁業、サービス業のうち、特に農業、漁業などの第1次産業の比率は、平成27年で約20%（県内平均の約2.5倍）と高い割合になっています。



寺院と教会の見える風景



平戸大橋



# 3 松浦市

面積：130.55km<sup>2</sup> 人口：23,309人（平成27年国勢調査）

松浦市は、圏域の北部、長崎県の北部に位置し、面積約131km<sup>2</sup>、人口約2万3,000人を有する都市です。

中世に九州北西部で活動した水軍・松浦党発祥の地であり、鎌倉時代に起きた蒙古襲来（元寇）においては、元軍の大船団が松浦市鷹島沖に集結した際、暴風雨により沈没・退却したことで知られています。

明治から昭和にかけては石炭産業を主力として栄えましたが、現在は、日本有数の水揚げ量を誇る松浦魚市場、海外炭を燃料とする国内最大規模の火力発電所を擁する、水産物とエネルギーの一大供給基地となっています。

また、高い技術力を持つ企業の誘致にも取り組み、本市から国内外へ向け、数多くの「メイドイン松浦」の製品が出荷されています。

現在、市内では高規格道路「西九州自動車道」の整備が進められており、伊万里松浦道路が開通すると福岡市中心部と約70分で行きわたることになります。

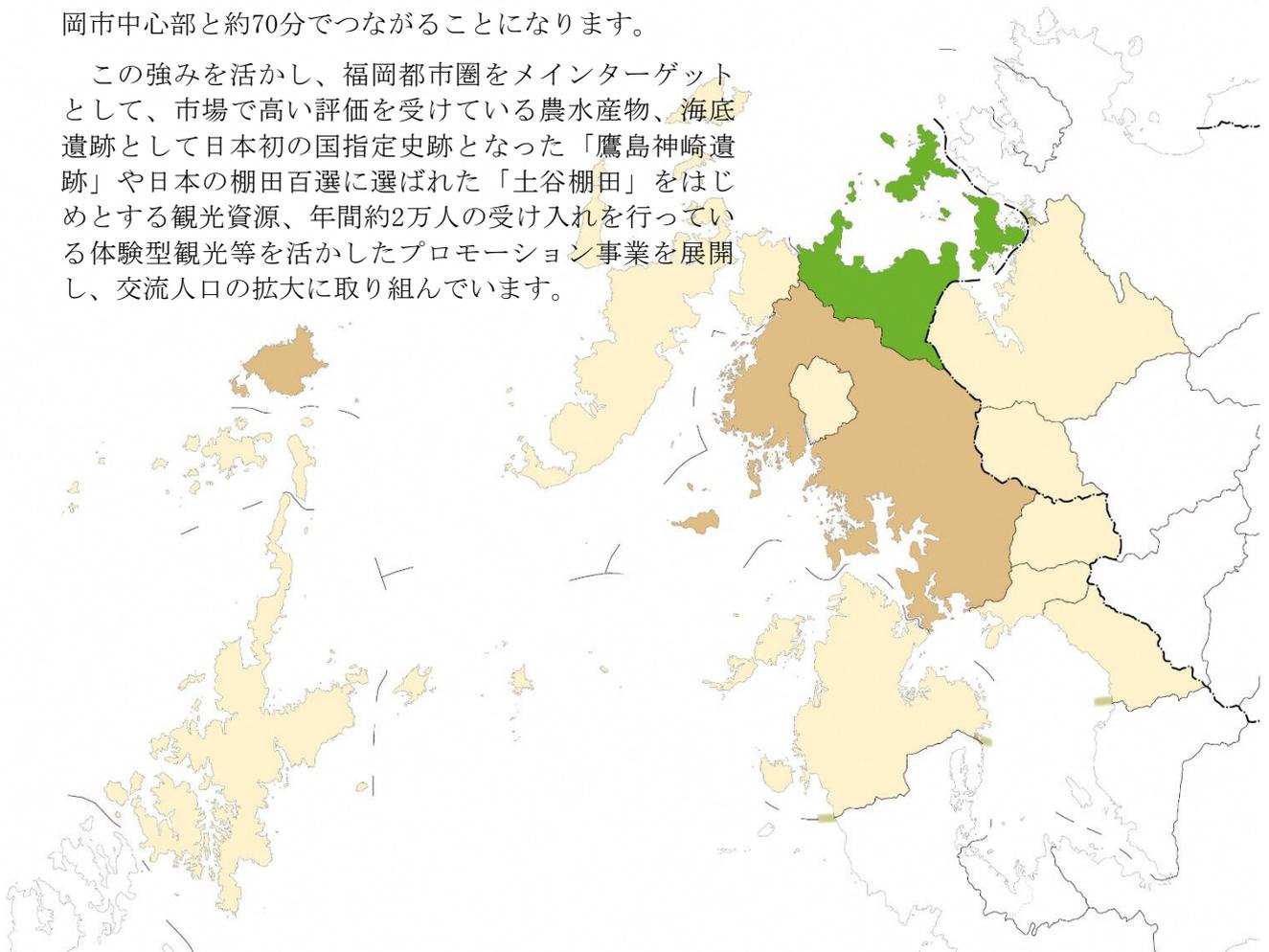
この強みを活かし、福岡都市圏をメインターゲットとして、市場で高い評価を受けている農水産物、海底遺跡として日本初の国指定史跡となった「鷹島神崎遺跡」や日本の棚田百選に選ばれた「土谷棚田」をはじめとする観光資源、年間約2万人の受け入れを行っている体験型観光等を活かしたプロモーション事業を展開し、交流人口の拡大に取り組んでいます。



土谷棚田



松浦魚市場・松浦市水産加工団地



## 1 西九州させぼ広域都市圏と構成自治体の概要

4  西海市面積：241.59km<sup>2</sup> 人口：28,691人（平成27年国勢調査）

西海市は、圏域の南部、長崎県西彼杵半島の北部に位置し、面積約242km<sup>2</sup>、人口約2万8,000人を有する都市です。

東岸は大村湾に、西岸は外海の五島灘、角力灘、北岸は佐世保湾に面し、複雑な地形を持った海岸線や、点在する大小さまざまな島等、美しく優れた自然景観を有しています。

1562年に日本最初のキリシタン大名である大村純忠が横瀬浦にポルトガルとの貿易港を開口したことから、西海市は南蛮貿易やキリスト教と縁の深い歴史を持っています。江戸時代には大村藩に属しており、大村藩の捕鯨基地としても栄えました。

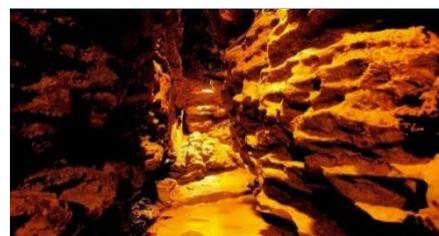
町村制が施行された明治22年4月時点では、13村で構成されていました。その後の合併、編入、町名変更を経て昭和44年1月に西彼町、西海町、大島町、崎戸町、大瀬戸町の5町構成となり、平成17年4月1日に5町が対等合併し西海市となりました。

西海市には、全国と比べても高い造船技術を持つ大島造船所を始めとして、松島火力発電所、ダイヤソルトといった優良企業があります。そういった民間と協力し、人材の確保及び育成について、トップランナーを目指します。

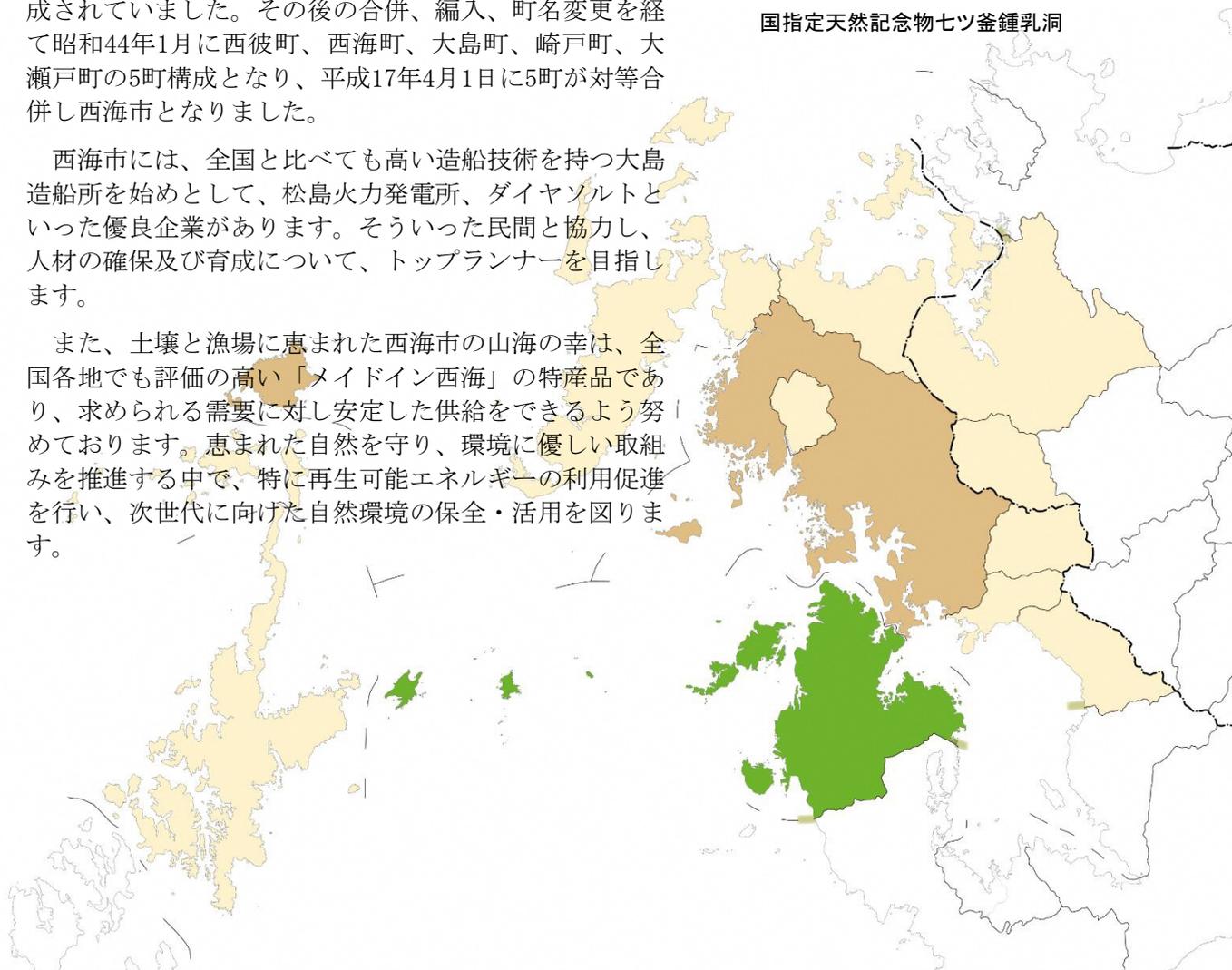
また、土壌と漁場に恵まれた西海市の山海の幸は、全国各地でも評価の高い「メイドイン西海」の特産品であり、求められる需要に対し安定した供給をできるように努めております。恵まれた自然を守り、環境に優しい取組みを推進する中で、特に再生可能エネルギーの利用促進を行い、次世代に向けた自然環境の保全・活用を図ります。



大島大橋



国指定天然記念物七ツ釜鍾乳洞



# 5 東彼杵町

面積：74.28km<sup>2</sup> 人口：8,298人（平成27年国勢調査）

東彼杵町は、圏域の南東部、長崎県の中央部に位置し、面積約74km<sup>2</sup>、人口約8,000人を有する町です。

古くは長崎街道の宿場町として、また、平戸街道の起点として栄えた町です。江戸初期から明治にかけては、五島近海で獲れた鯨の集積基地として栄え、現在も町内にはこうした街道や鯨にまつわる歴史の面影が各所に残されています。

東彼杵町は、2つの国道のほか、長崎自動車道が町を縦断、南西に臨む波静かな大村湾の海岸線には、長崎・佐世保を繋ぐJR大村線が走り、隣接する大村市にある長崎空港にも車で30分と、陸海空の交通アクセスに恵まれた町です。

基幹産業である農業は、お茶、いちご、アスパラガスなどの生産が盛んで、特にお茶に関しては、長崎玉緑茶の生産量の大半を占め、「そのぎ茶」ブランドで親しまれています。全国茶品評会において平成29年度から令和元年度まで3年連続で、蒸し製玉緑茶の部で農林水産大臣賞を受賞、さらには消費者が選ぶ日本一おいしいお茶「日本茶アワード」でも過去3回最高賞「日本茶大賞」（農林水産大臣賞）に選ばれるなど、全国的な高い評価を受けています。

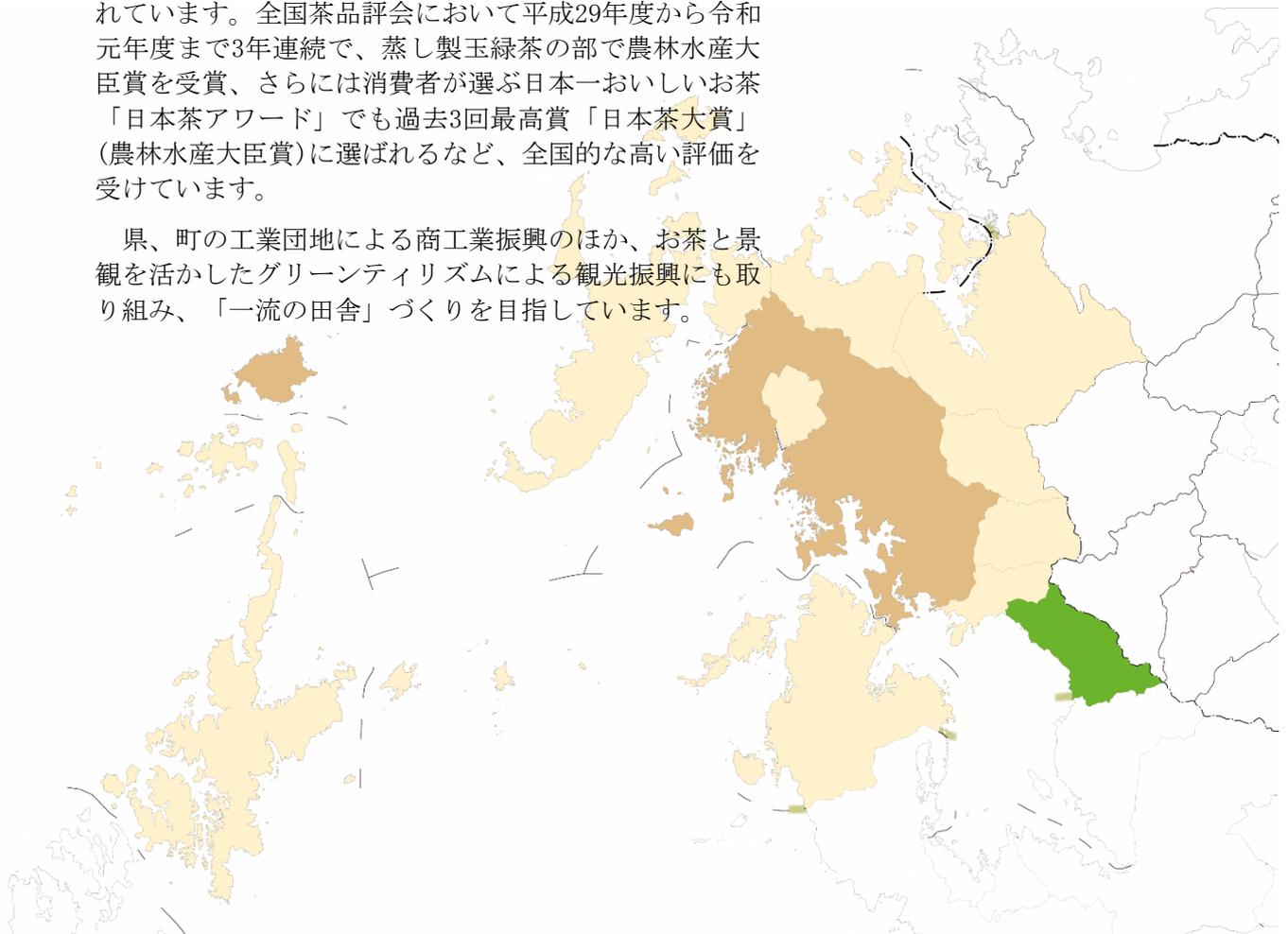
県、町の工業団地による商工業振興のほか、お茶と景観を活かしたグリーンティリズムによる観光振興にも取り組み、「一流の田舎」づくりを目指しています。



そのぎ茶



千綿駅（井ロー也氏撮影）



## 1 西九州させぼ広域都市圏と構成自治体の概要

# 6 川棚町

面積：37.25km<sup>2</sup> 人口：14,067人（平成27年国勢調査）

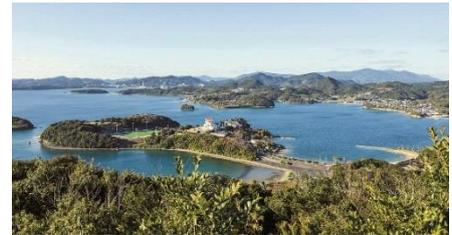
川棚町は、圏域の南東部、長崎県の中央部に位置し、面積約37km<sup>2</sup>、人口約1万4,000人を有する都市です。

佐世保市に隣接し、南は波静かな大村湾に面し、東には九州のmatterホルンと呼ばれる虚空蔵山がそびえ、西の大崎半島一帯は県立自然公園に指定され、町の中心を川棚川が貫流している豊かな自然環境が調和した風光明媚な町です。

肥前風土記のなかで、はるか昔「川岸之村」と呼ばれていたと記されている本町は、昭和9年に町制を施行し、川棚町としての歩みを始めました。第二次世界大戦中であつた昭和17年に海軍工廠ができたのをはじめ、軍関係の施設が町内のいたるところにでき、町制施行時に7千6百人程度であつた人口は当時3万人にまでふくれあがりました。

また、行政区域については、昭和18年に東彼杵町小音琴郷の一部を編入、昭和35年及び昭和37年に波佐見町中山郷の一部を編入し、現在に至っています。

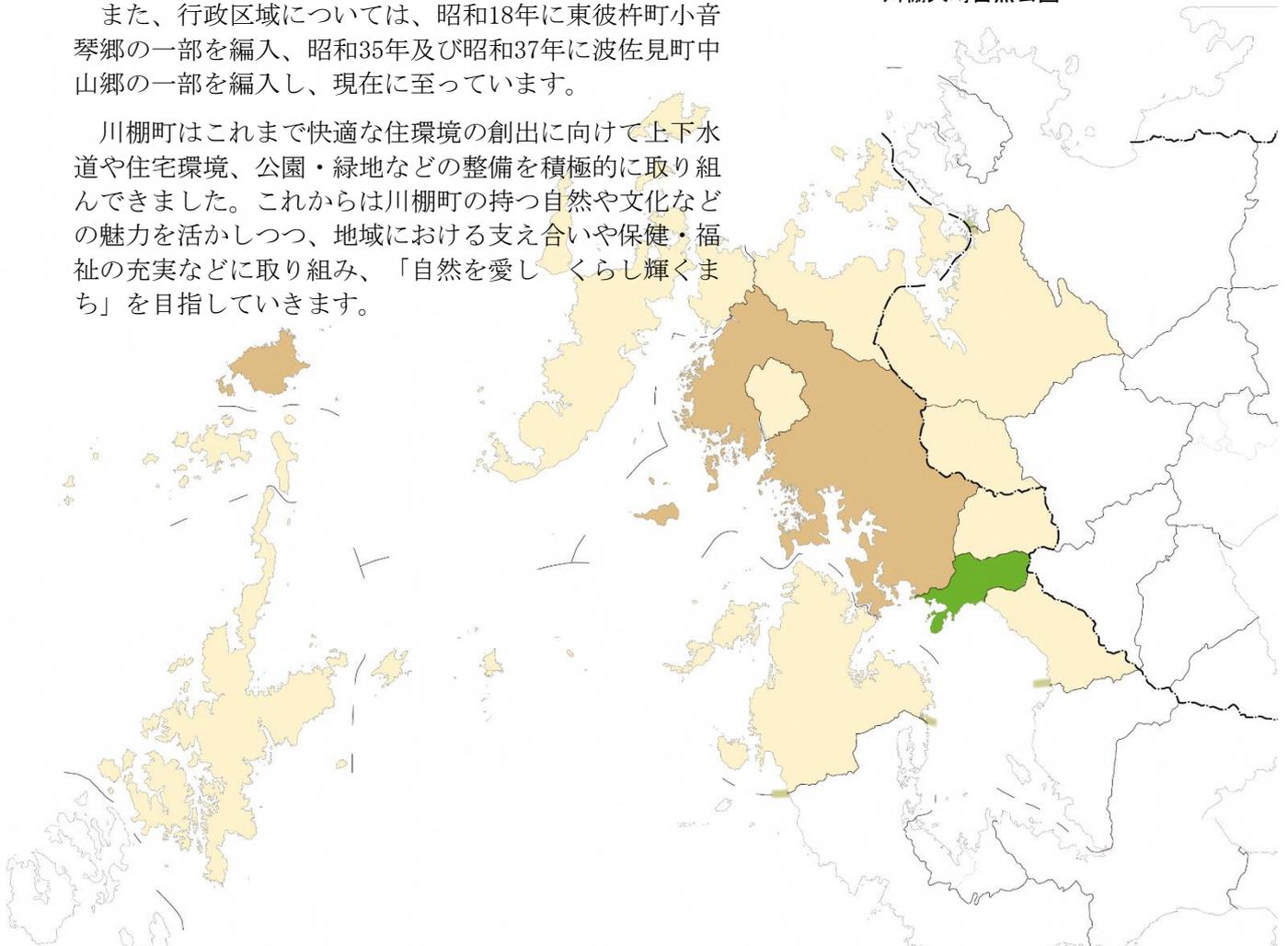
川棚町はこれまで快適な住環境の創出に向けて上下水道や住宅環境、公園・緑地などの整備を積極的に行ってきました。これからは川棚町の持つ自然や文化などの魅力を活かしつつ、地域における支え合いや保健・福祉の充実などに取り組み、「自然を愛し 暮らし輝くまち」を目指していきます。



川棚大崎自然公園



川棚大崎自然公園



## 7



## 波佐見町

面積：56.00km<sup>2</sup> 人口：14,891人（平成27年国勢調査）

波佐見町は、圏域の東部、長崎県の中央部に位置し、面積約56km<sup>2</sup>、人口約1万5,000人を有する都市です。

江戸時代は「波佐見村」として大村藩に属し、明治期に「上波佐見村」と「下波佐見村」に分かれた後、昭和31年（1956）に合併し「波佐見町」となり、現在、町政施行後60年を数えます。

波佐見町は、400年の歴史を誇る窯業と農業の町でもあり、波佐見焼は全国の日用食器の約12%のシェアを持ち、普段使いの器として、その時代のニーズに合わせてデザインした手の届きやすい焼き物をつくっています。また、日本の棚田百選に選ばれた「鬼木棚田」をはじめ、田園風景の広がる緑豊かな街並みを形成しています。

さらに、今の波佐見町は“観光が楽しい町”でもあります。「桜陶祭」、「波佐見陶器まつり」、「皿山器替えまつり」など、作り手とふれあいながら波佐見焼を購入できるイベントのほか、「鬼木棚田まつり」をはじめとした豊かな自然や清流を楽しむイベントを、年間を通して楽しむことができます。

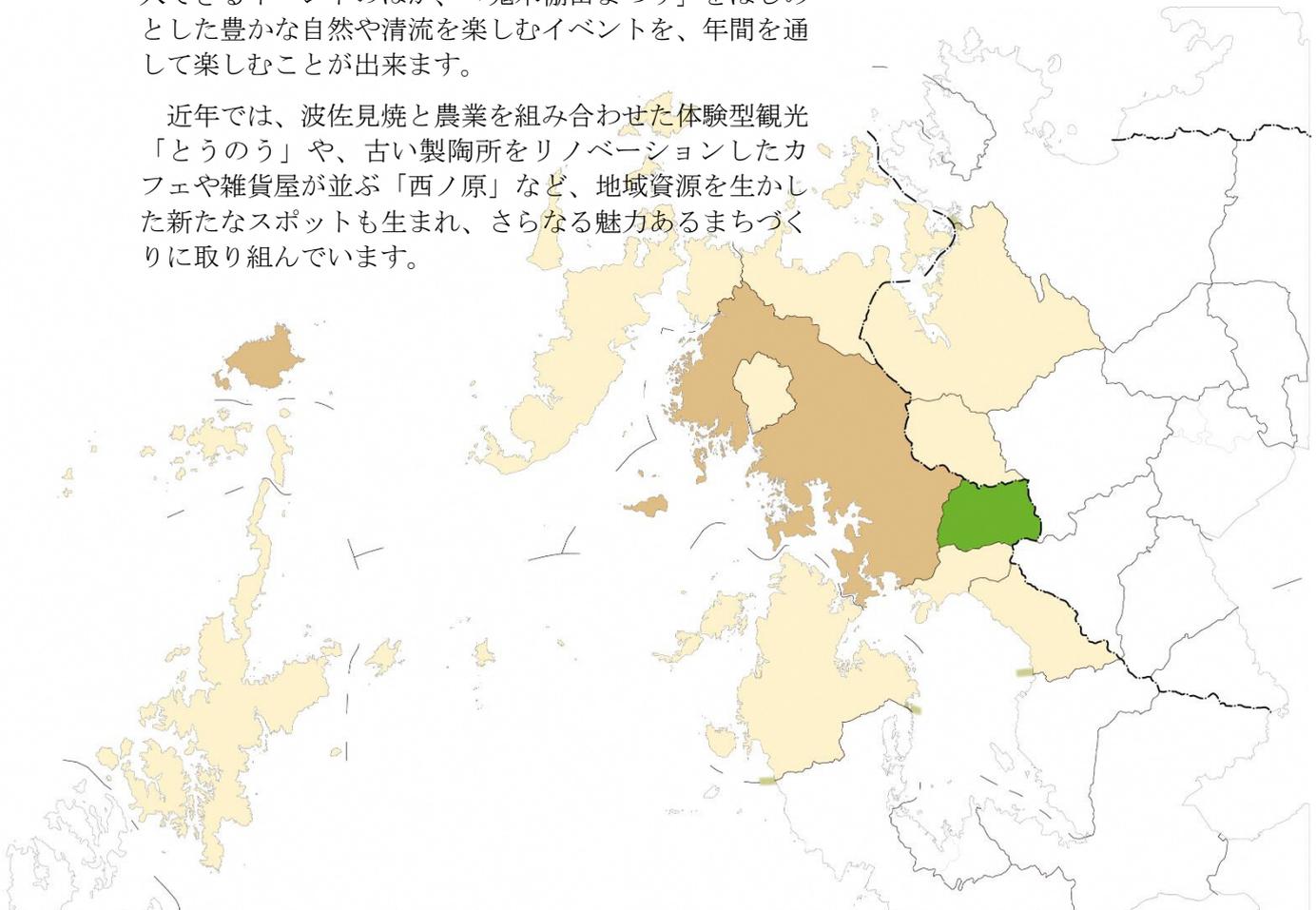
近年では、波佐見焼と農業を組み合わせた体験型観光「とうのう」や、古い製陶所をリノベーションしたカフェや雑貨屋が並ぶ「西ノ原」など、地域資源を生かした新たなスポットも生まれ、さらなる魅力あるまちづくりに取り組んでいます。



波佐見陶器まつり



鬼木棚田



## 1 西九州させぼ広域都市圏と構成自治体の概要

8  小値賀町面積：25.52km<sup>2</sup> 人口：2,560人（平成27年国勢調査）

小値賀町は、圏域の西部、長崎県五島列島北部に位置し、面積約26km<sup>2</sup>、人口約2,500人を有する都市です。

長崎県で最も小さな自治体でもあり、小値賀本島を中心に大小17の島々で構成される火山活動によって生じた珍しい群島で、島嶼部でありながら地形は平坦であり、複雑な海岸線が織りなす美しい自然環境に恵まれ、島のほとんどが西海国立公園に指定されています。

小値賀町には、旧石器時代から人々が連綿と営み続けた歴史・文化があり、肥前風土記にもその名が記され、往古は遣唐使の寄港地でもありました。藩政時代は、平戸藩松浦家の所領であり、廃藩置県後、笛吹・前方・柳の3村に分かれ自治制が敷かれていましたが、大正15年に3村が合併して小値賀村となり、昭和15年に町制を施行し、平成31年に町制施行80周年を迎えます。

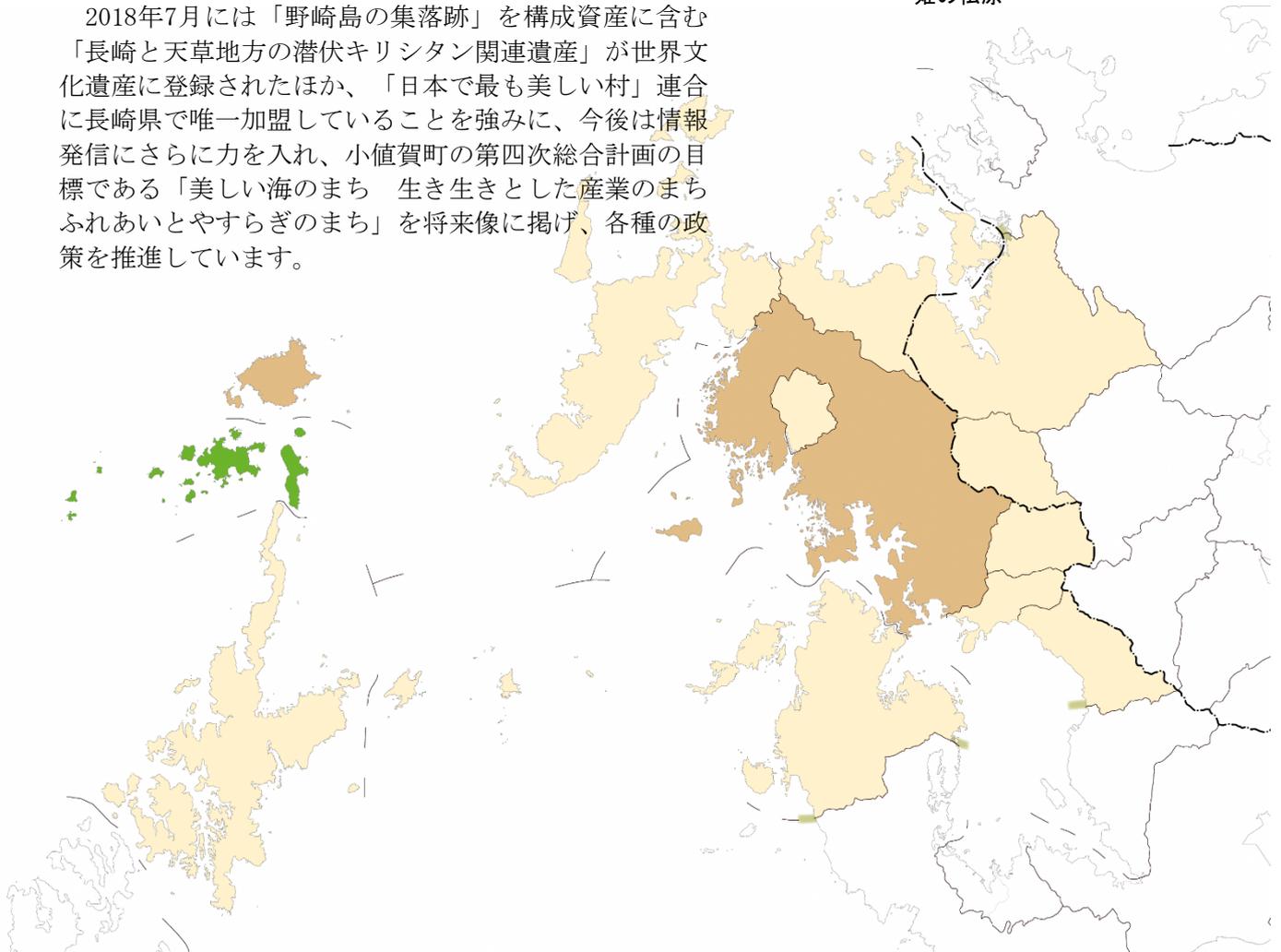
2018年7月には「野崎島の集落跡」を構成資産を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されたほか、「日本で最も美しい村」連合に長崎県で唯一加盟していることを強みに、今後は情報発信にさらに力を入れ、小値賀町の第四次総合計画の目標である「美しい海のまち 生き生きとした産業のまち ふれあいとやすらぎのまち」を将来像に掲げ、各種の政策を推進しています。



旧野首教会



姫の松原



# 9 佐々町

面積：32.26km<sup>2</sup> 人口：13,626人（平成27年国勢調査）

佐々町は、圏域の中央部、長崎県の北部に位置し、面積約32km<sup>2</sup>、人口約1万4,000人を有する都市です。

佐世保市に隣接し、古くは佐々村、市瀬村が明治22年に合併して佐々村となり、大正から昭和にかけての炭鉱全盛期には、人口が2倍に膨れ上がるほどの勢いで急速に発展し、昭和16年に町政を施行しました。

近年は、佐世保市のベッドタウンとして発展してきましたが、平成23年9月に西九州自動車道佐々インターチェンジの供用が開始されたことにより、佐世保市などへのアクセスが格段に向上したことで、今後更なる発展が期待されます。

また、町の中央を北東から南へかけ、国見山（佐世保市世知原町）に源流を発する延長21.9kmにおよぶ佐々川が貫流し、川に沿って平野が開け、町が展開しています。

まちのシンボルである佐々川は、生物多様性に富んでおり、春の風物詩であるシロウオのほか、カブトガニやハクセンシオマネキなどの絶滅危惧種も多数生息しています。

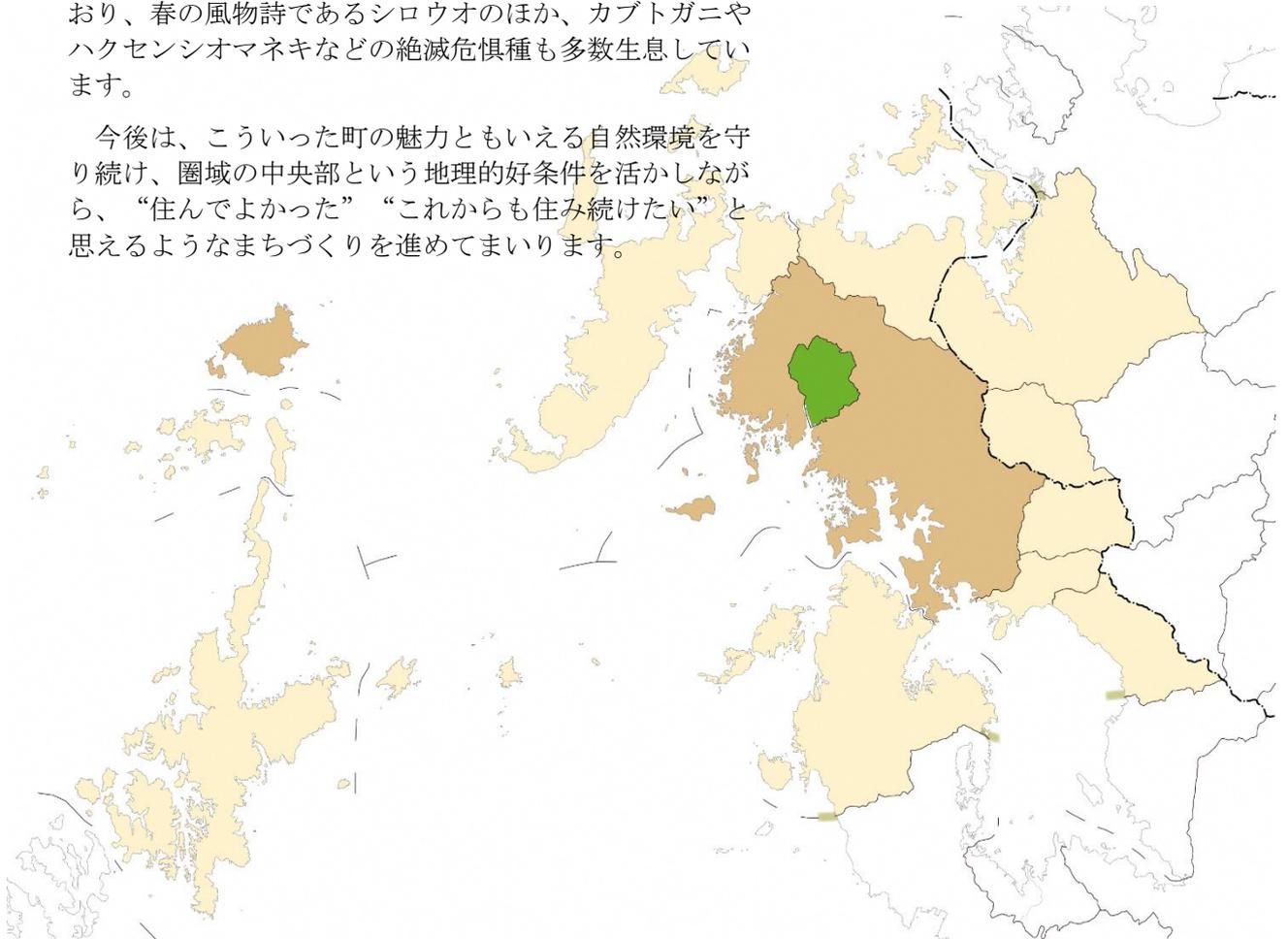
今後は、こういった町の魅力ともいえる自然環境を守り続け、圏域の中央部という地理的好条件を活かしながら、“住んでよかった”“これからも住み続けたい”と思えるようなまちづくりを進めてまいります。



佐々川のシロウオ漁・河津桜



皿山菖蒲園



# 10 新上五島町

面積：213.99km<sup>2</sup> 人口：19,718人（平成27年国勢調査）

新上五島町は、圏域の南西部、長崎県五島列島北部に位置し、面積約214km<sup>2</sup>、人口約2万人を有する都市です。

中通島と若松島を中心とする7つの有人島と60の無人島から構成され、全般に細長く、急峻な山々が連なり、東は五島灘、西は東シナ海に面しており、海岸延長は約429kmにおよび、遠浅で砂浜が美しい蛤浜海水浴場やリアス式海岸の入江が織りなす美しい景観の若松瀬戸など海と山の豊かな自然を擁し、その大部分が西海国立公園に指定されています。

世界文化遺産に認定された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である頭ヶ島の集落には、キリシタンの歴史を物語る教会や遺産があり、町内では異なる宗教が地元の方々の生活に溶け込み、共存してきた「祈りの島」としての歴史があります。

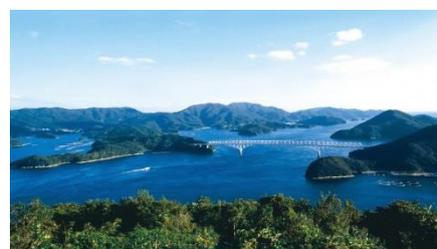
新上五島町は、日本有数の好漁場として水産資源に非常に恵まれており、漁船漁業と養殖業が営まれ、多種多様な水産物が水揚げされています。

また、遣唐使が伝えたとも言われる五島うどんの産地であり、日本三大うどんの一つにも挙げられており、椿油が表面に塗られ、コシの強さ、のどごしの良さが特徴です。

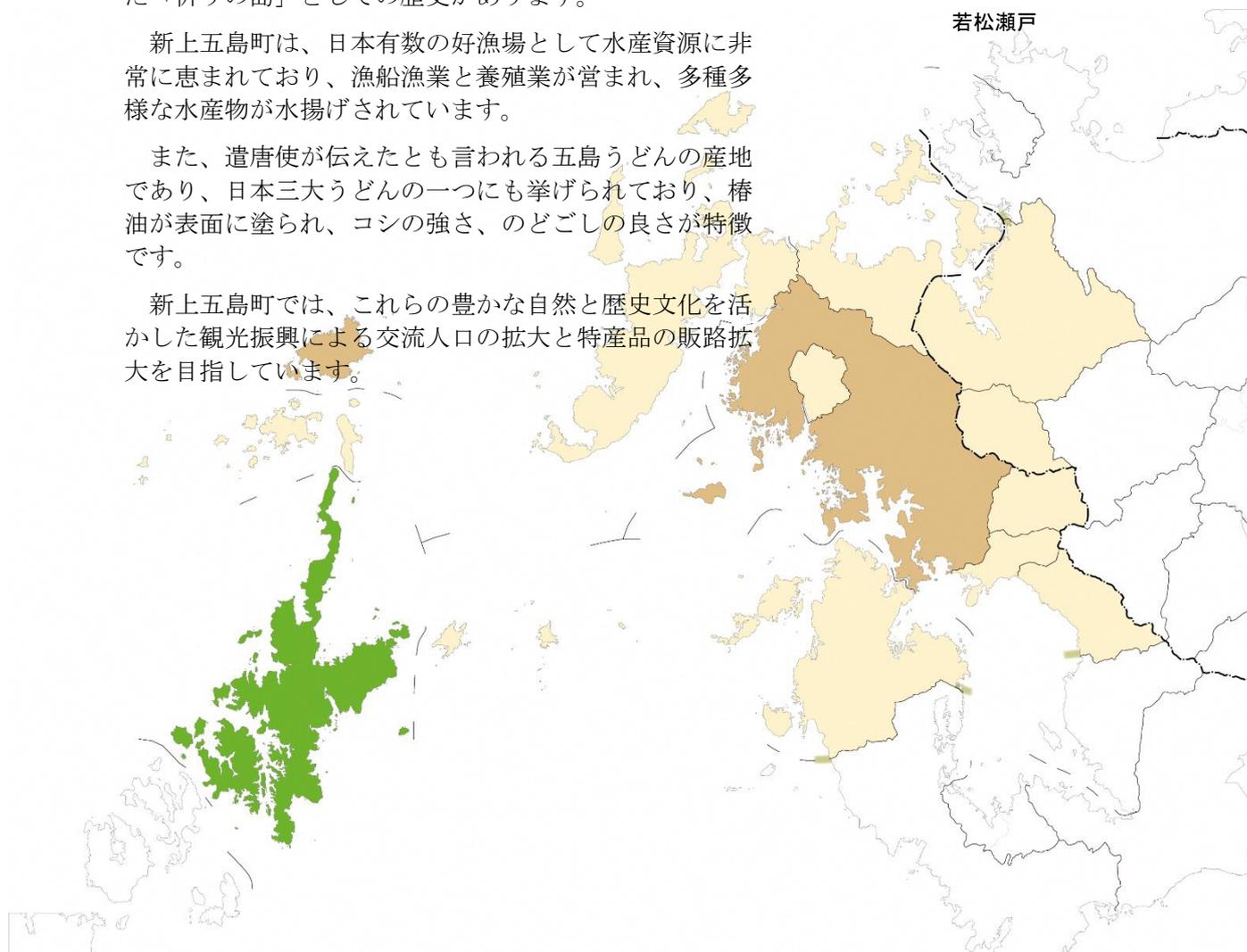
新上五島町では、これらの豊かな自然と歴史文化を活かした観光振興による交流人口の拡大と特産品の販路拡大を目指しています。



頭ヶ島天主堂



若松瀬戸



## 1 西九州させば広域都市圏と構成自治体の概要

11  伊万里市面積：255.25km<sup>2</sup> 人口：55,238人（平成27年国勢調査）

伊万里市は、圏域の北東部、佐賀県の西北部に位置し、面積約255km<sup>2</sup>、人口約5万5,000人を有する都市です。

中心市街地は江戸時代に当時は「伊万里」と称される肥前磁器の積み出し港として栄え、また、大川内山では陶磁美の粋を結晶させた「鍋島」を生み出すなど、文化的な都市として繁栄してきました。「伊万里焼」の名称は国内のみならず世界的にも著名であり、平成28年には「日本磁器のふるさと 肥前」として近隣市町とともに日本遺産に認定されました。

伊万里ブランドとして名高い伊万里牛や伊万里梨に代表される農業が市内各地で営まれています。

今日では、臨海部を中心に製造業が集積し、伊万里港においては、国の重点港湾および日本海側拠点港に選定されるとともに、韓国・釜山、中国・大連、上海などとの国際コンテナ定期航路が開設され、九州でも有数のコンテナ取扱港となっています。

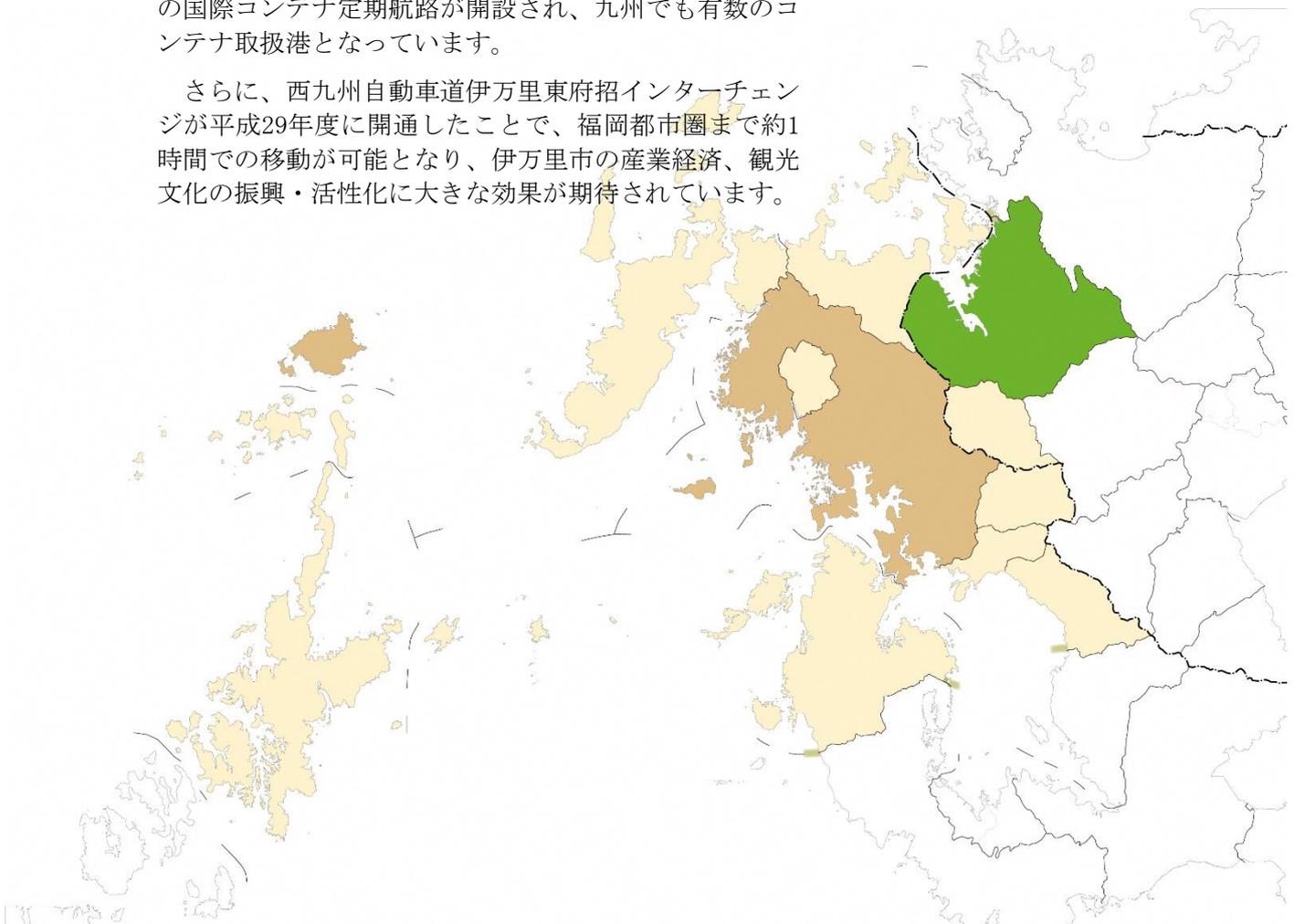
さらに、西九州自動車道伊万里東府招インターチェンジが平成29年度に開通したことで、福岡都市圏まで約1時間での移動が可能となり、伊万里市の産業経済、観光文化の振興・活性化に大きな効果が期待されています。



伊万里津大橋



カブトガニ・カブトガニ繁殖地



# 12 有田町

面積：65.85km<sup>2</sup> 人口：20,148人（平成27年国勢調査）

有田町は、圏域の東部、佐賀県の西部に位置し、面積約66km<sup>2</sup>、人口約2万人を有する都市です。

2006年3月1日に、旧有田町と旧西有田町が合併し、新しい「有田町」が誕生しました。美しい景観を誇る田園地帯や、黒髪連山など豊かな自然に恵まれた町です。

古くからやきものの町として有名な有田町は、1616年に朝鮮人陶工李参平らによって泉山に陶石が発見され、日本で初めて磁器が焼かれました。以来、佐賀藩のもとで、磁器生産が本格化し、谷あいには「有田千軒」と呼ばれる町並みが形成され、繁栄を極めました。

この町並みは、現在も歴史的価値の高い建物が数多く残っており、1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に、2017年には国際記念物遺跡会議（イコモス）の国内委員会の後世に残したい「日本の20世紀遺産20選」に選定されています。

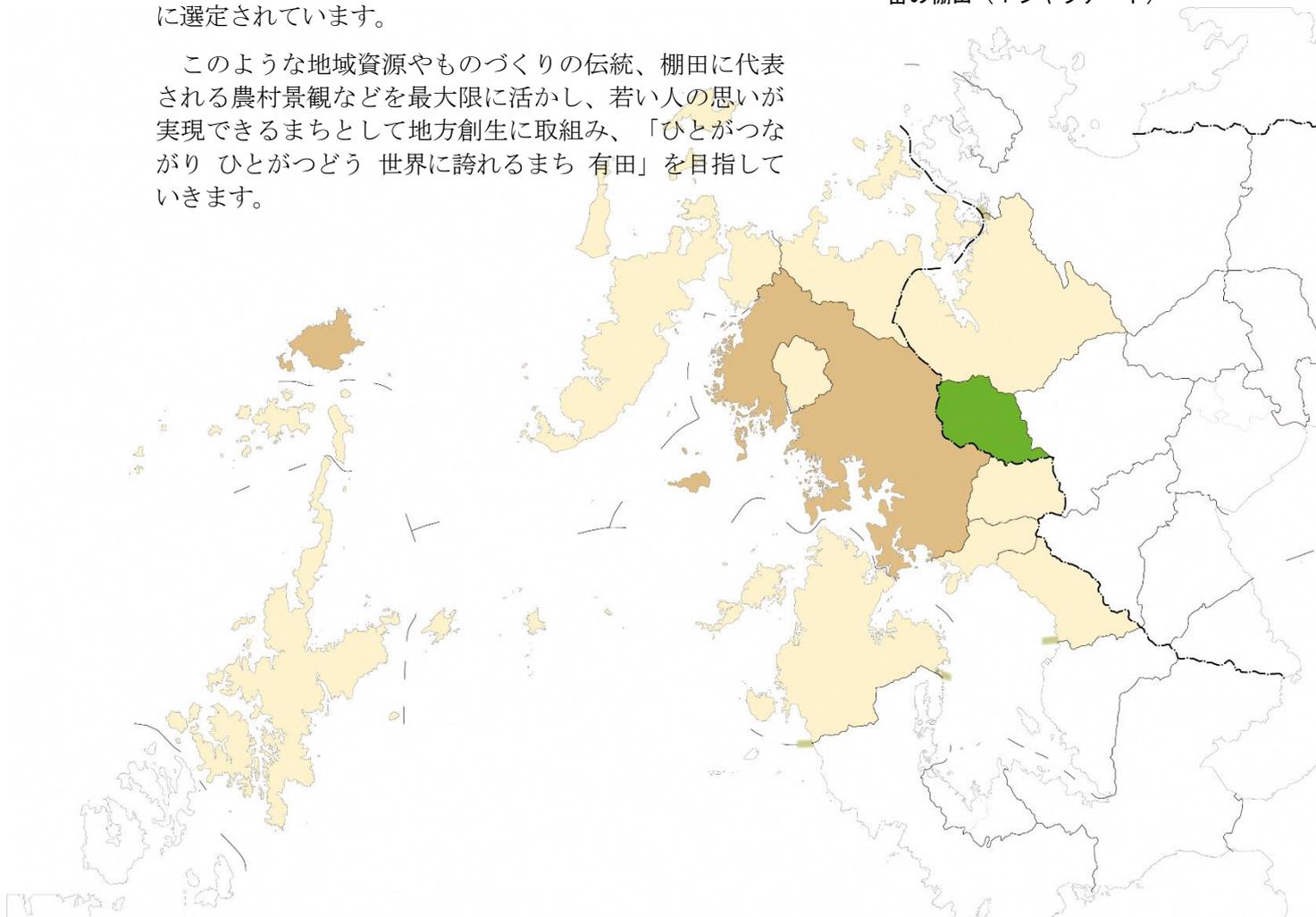
このような地域資源やものづくりの伝統、棚田に代表される農村景観などを最大限に活かし、若い人の思いが実現できるまちとして地方創生に取り組み、「ひとがつながりひとがつどう世界に誇れるまち 有田」を目指していきます。



内山地区の町並み



岳の棚田（Tシャツアート）



## 2

## 圏域の人口動態

## (1) 圏域の総人口の推移及び将来推計人口の推移

本圏域の総人口は、現在に至るまで減少傾向が続いており、将来推計においても減少し続け、令和22年（2040年）には、37万人程度になると予測されています。

構成市町の中では、平成27年国勢調査において佐々町が唯一増加傾向にありましたが、長期的には全ての構成市町が減少に転じています。

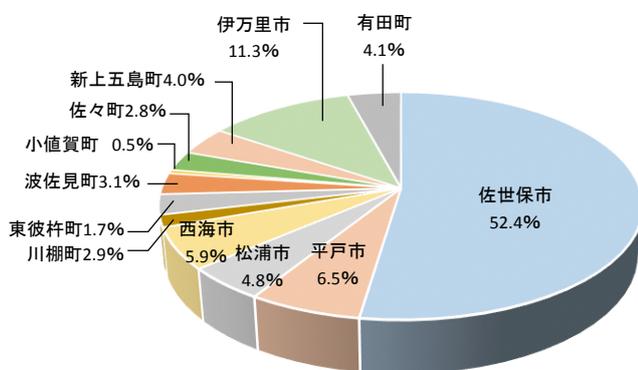
〔図表1-1 圏域構成市町の総人口推移・将来推計人口推移〕

	実績					推計	
	昭和55年 (1980年)	平成2年 (1990年)	平成12年 (2000年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和12年 (2030年)	令和22年 (2040年)
佐世保市	288,231	280,261	274,399	261,101	255,439	230,906	211,781
平戸市	50,849	46,572	41,586	34,905	31,920	23,132	17,875
松浦市	32,478	31,254	28,370	25,145	23,309	17,767	14,358
西海市	41,064	37,610	35,288	31,176	28,691	21,888	17,766
東彼杵町	10,353	10,188	10,026	8,903	8,298	6,583	5,432
川棚町	14,479	14,599	15,325	14,651	14,067	11,896	10,164
波佐見町	15,498	15,728	15,462	15,227	14,891	13,302	12,020
小値賀町	5,684	4,651	3,765	2,849	2,560	1,632	1,156
佐々町	11,812	12,068	13,335	13,599	13,626	12,880	11,948
新上五島町	38,140	32,123	27,559	22,074	19,718	12,965	9,323
伊万里市	61,243	60,882	59,143	57,161	55,238	48,109	42,938
有田町	23,495	23,413	22,314	20,929	20,148	17,207	15,046
圏域合計	593,326	569,349	546,572	507,720	487,905	418,267	369,807

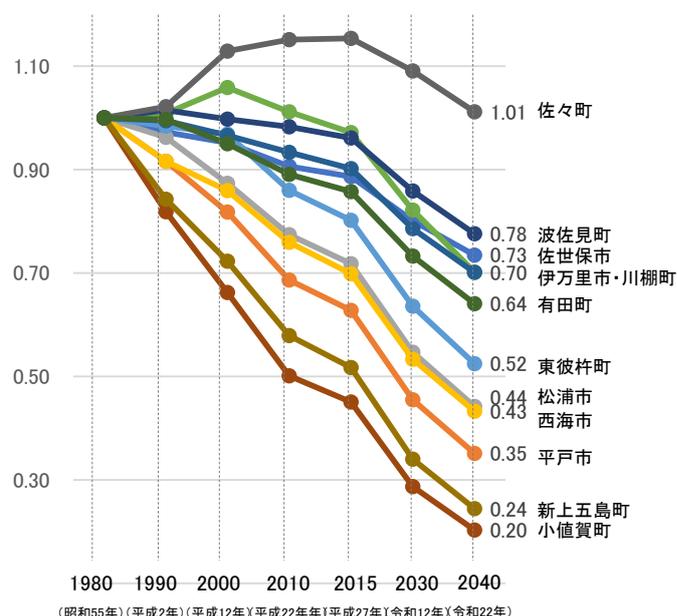
(出典)「平成27年国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月)

〔図表1-2 圏域の人口構成及び総人口・将来推計人口推移グラフ〕

(人口構成比:平成27年国勢調査)



(人口推移:1980を1.0とした場合)



1980—1990—2000—2010—2015—2030—2040  
(昭和55年) (平成2年) (平成12年) (平成22年) (平成27年) (令和12年) (令和22年)

(出典)「平成27年国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月)

## 2 圏域の人口動態

### (2) 圏域の総人口の推移及び将来推計人口の推移

圏域の年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向が続くと予測されており、老年人口（65歳以上）は令和2年（2020年）までは増加傾向にあるものの、以降、減少に転じる予測となっています。

また、本圏域の年齢別人口構成比率の推移については、生産年齢人口（15歳～64歳）の比率の減少傾向が顕著となっている一方、年少人口（0歳～14歳）の比率は約12%台を維持する傾向が予測されています。

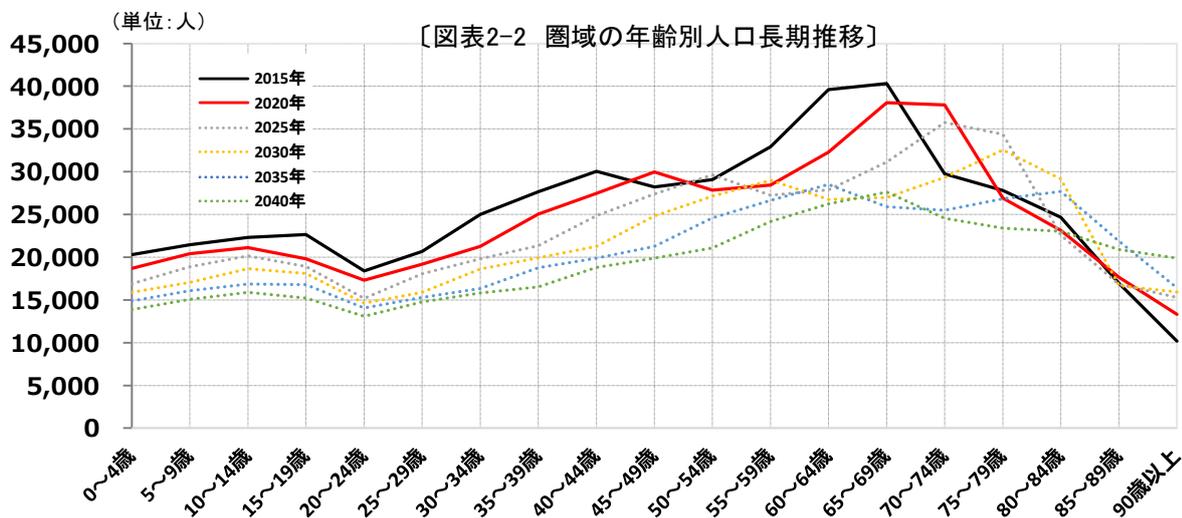
〔図表2-1 圏域の年齢別人口長期推移〕

(単位:人)

男女計	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	487,905	465,652	442,163	418,267	394,093	369,807
0～4歳	20,294	18,704	16,884	15,889	14,876	13,889
5～9歳	21,440	20,419	18,872	17,052	16,067	15,055
10～14歳	22,323	21,131	20,160	18,647	16,857	15,889
15～19歳	22,649	19,820	18,903	18,078	16,797	15,226
20～24歳	18,381	17,317	15,193	14,612	14,044	13,100
25～29歳	20,662	19,182	18,060	15,887	15,297	14,770
30～34歳	25,004	21,248	19,797	18,614	16,347	15,830
35～39歳	27,647	25,021	21,336	19,924	18,778	16,536
40～44歳	30,037	27,450	24,853	21,260	19,874	18,790
45～49歳	28,224	29,968	27,404	24,804	21,255	19,890
50～54歳	29,078	27,852	29,622	27,144	24,584	21,087
55～59歳	32,924	28,432	27,242	29,006	26,633	24,173
60～64歳	39,609	32,270	27,895	26,763	28,510	26,240
65～69歳	40,320	38,073	31,124	26,975	25,913	27,622
70～74歳	29,745	37,809	35,744	29,319	25,487	24,542
75～79歳	27,800	26,891	34,359	32,548	26,825	23,402
80～84歳	24,662	23,130	22,588	29,138	27,689	23,016
85～89歳	16,929	17,641	16,822	16,669	21,847	20,880
90歳以上	10,177	13,294	15,305	15,938	16,413	19,870
0～14歳	64,057	60,254	55,916	51,588	47,800	44,833
15～64歳	274,215	248,560	230,305	216,092	202,119	185,642
65歳以上※	149,633	156,838	155,942	150,587	144,174	139,332
75歳以上	79,568	80,956	89,074	94,293	92,774	87,168

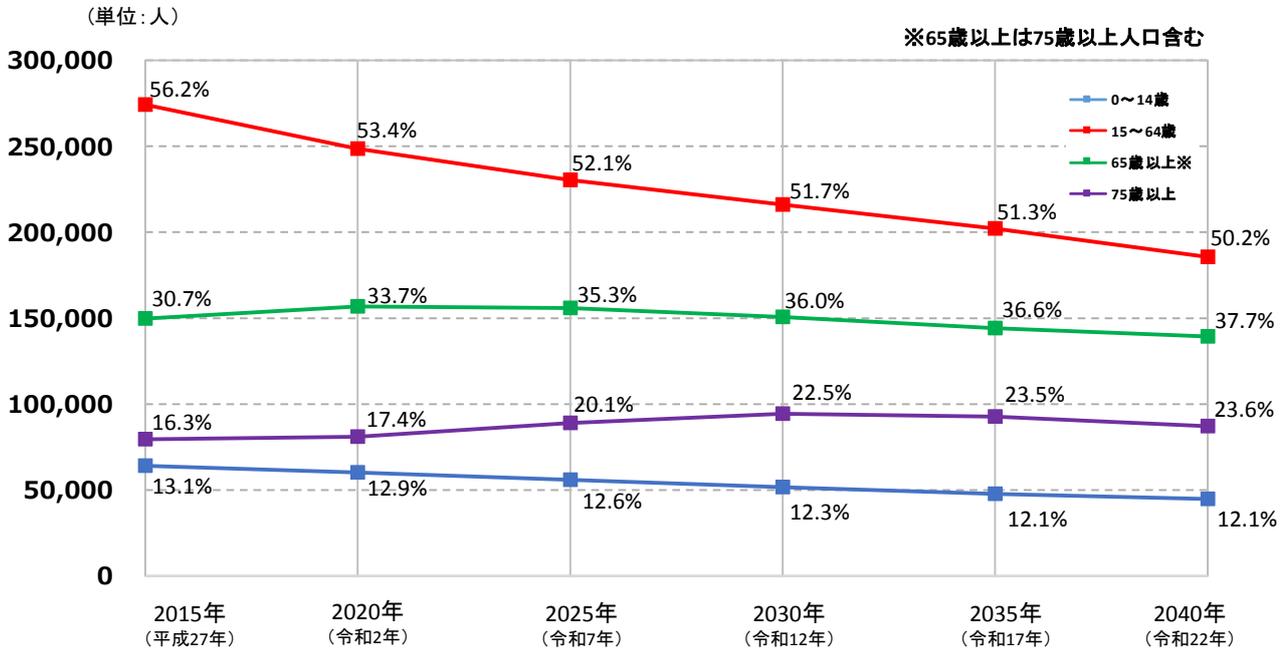
※65歳以上は75歳以上人口含む

(出典)「平成27年国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月)



(出典)「平成27年国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月)

〔図表2-3 圏域の年齢別人口構成比率推移〕

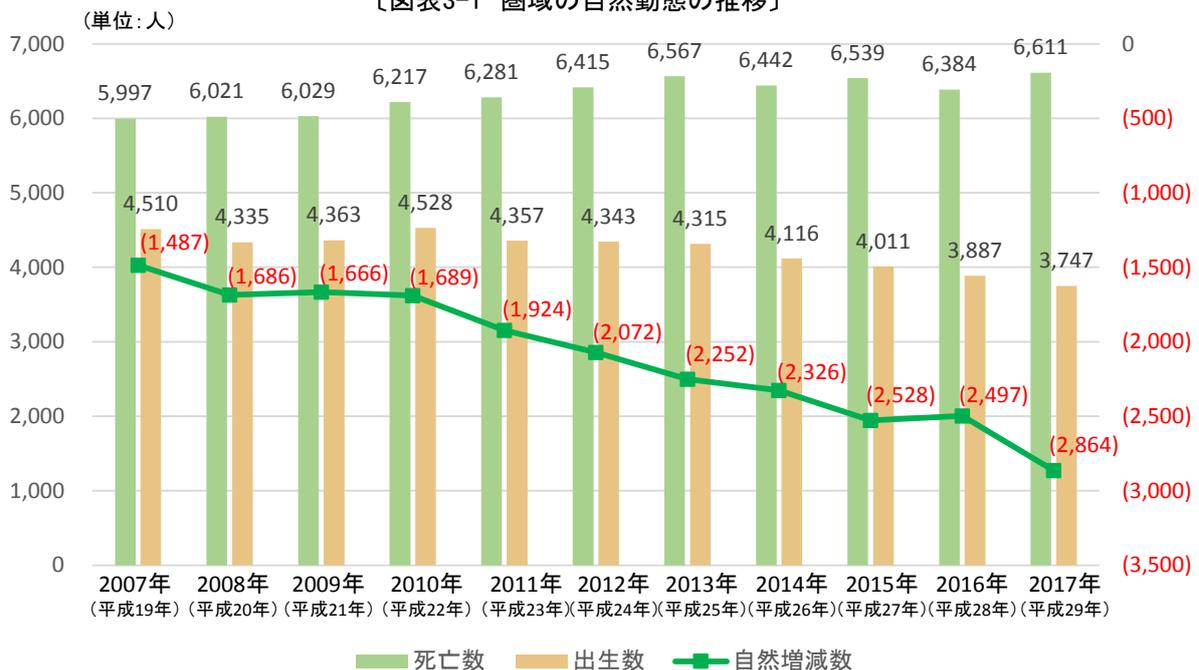


(出典)「平成27年国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月)

### (3) 圏域の自然動態

少子高齢化の進行により、圏域の自然動態は出生数が減少、死亡数が増加の傾向となっており、平成22年以降は自然減の拡大傾向で推移しています。

〔図表3-1 圏域の自然動態の推移〕



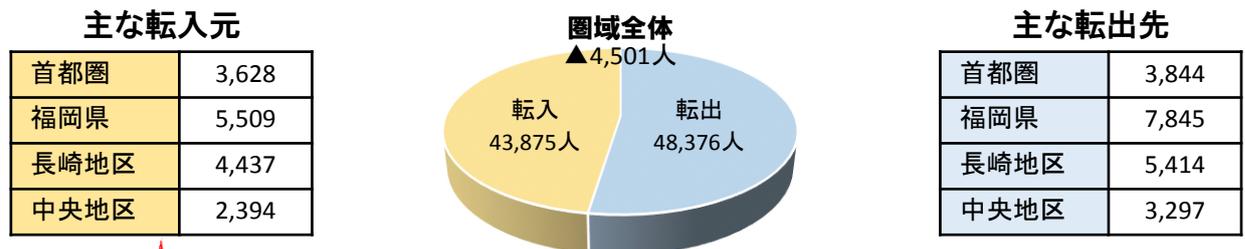
(出典)長崎県・佐賀県異動人口調査

### (4) 圏域の社会動態

本圏域全体では、5年間で4,501人の転出超となっています。特に首都圏、福岡県への転出者数は11,689人で、転出者全体の約24.2%を占め、約4人に1人が転出しています。

本圏域内の動きでは、佐世保市、東彼杵町、波佐見町、佐々町、伊万里市、有田町が転入超となっているものの、圏域外の動きも合わせると、佐々町と波佐見町を除き、転出超となっています。

〔図表4-1 圏域の社会動態の状況〕



〔図表4-2 構成市町における居住地移動状況〕

	圏域内計	①の内訳												圏域外計	②の内訳(一部)				計③
	①	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	②	福岡県	首都圏	長崎地区	県央地区	①+②
佐世保市	740		497	226	293	11	3	▲132	22	▲192	78	▲13	▲53	▲1,021	▲1,228	▲251	▲215	▲283	▲281
平戸市	▲644	▲497		▲27	7	▲2	▲4	▲7	▲2	▲94	9	▲29	2	▲613	▲210	49	▲73	▲93	▲1,257
松浦市	▲491	▲226	27		▲3	2	▲4	2	0	▲41	▲4	▲210	▲34	▲174	▲86	6	▲35	▲67	▲665
西海市	▲325	▲293	▲7	3		▲4	▲15	▲6	1	0	▲2	▲2	0	▲307	▲72	10	▲284	▲116	▲632
東彼杵町	60	▲11	2	▲2	4		64	▲4	0	▲2	9	▲2	2	▲170	▲22	19	▲9	▲97	▲110
川棚町	▲95	▲3	4	4	15	▲64		▲41	4	2	4	▲11	▲9	▲244	▲96	▲7	▲60	▲99	▲339
波佐見町	177	132	7	▲2	6	4	41		▲4	4	1	▲13	1	▲152	▲61	▲3	20	4	25
小値賀町	▲22	▲22	2	0	▲1	0	▲4	4		0	▲2	0	1	10	21	22	▲10	▲14	▲12
佐々町	322	192	94	41	0	2	▲2	▲4	0		▲5	▲4	8	▲227	▲76	▲4	▲12	▲10	95
新上五島町	▲90	▲78	▲9	4	2	▲9	▲4	▲1	2	5		2	▲4	▲598	▲156	34	▲248	▲106	▲688
伊万里市	241	13	29	210	2	2	11	13	0	4	▲2		▲41	▲629	▲221	▲74	▲32	▲18	▲388
有田町	127	53	▲2	34	0	▲2	9	▲1	▲1	▲8	4	41		▲376	▲129	▲17	▲19	▲4	▲249
合計	0	▲740	644	491	325	▲60	95	▲177	22	▲322	90	▲241	▲127	▲4,501	▲2,336	▲216	▲977	▲903	▲4,501

※5年前（平成22年10月1日）の居住地移動状況集計（5年前にどこに居住していたのか）  
 （出典）「平成27年国勢調査」（5年前（平成22年10月1日）の居住地移動状況集計）

**(5) 圏域内自治体から佐世保市への通勤・通学の状況**

佐世保市への通勤通学割合は、佐々町、川棚町、波佐見町及び西海市が10%を超えており、その中でも佐々町から佐世保市への通勤通学割合が44.7%と高くなっています。

〔図表5-1 佐世保市への通勤通学割合〕

構成市町	常在する 就業・通学者数(人) (A)	佐世保市への 就業・通学者数(人) (B)	佐世保市への 通勤通学割合(%) (C) = (B) / (A) × 100
平戸市	14,862	1,074	7.2
松浦市	11,788	972	8.2
西海市	14,120	1,436	10.2
東彼杵町	4,234	356	8.4
川棚町	7,712	1,862	24.1
波佐見町	8,295	1,748	21.1
小値賀町	898	1	0.1
佐々町	7,685	3,433	44.7
新上五島町	9,148	7	0.1
伊万里市	30,519	582	1.9
有田町	10,959	869	7.9

※「常在する就業・通学者数」は、自宅で従業する者の数を除く。

(出典)「平成27年国勢調査」

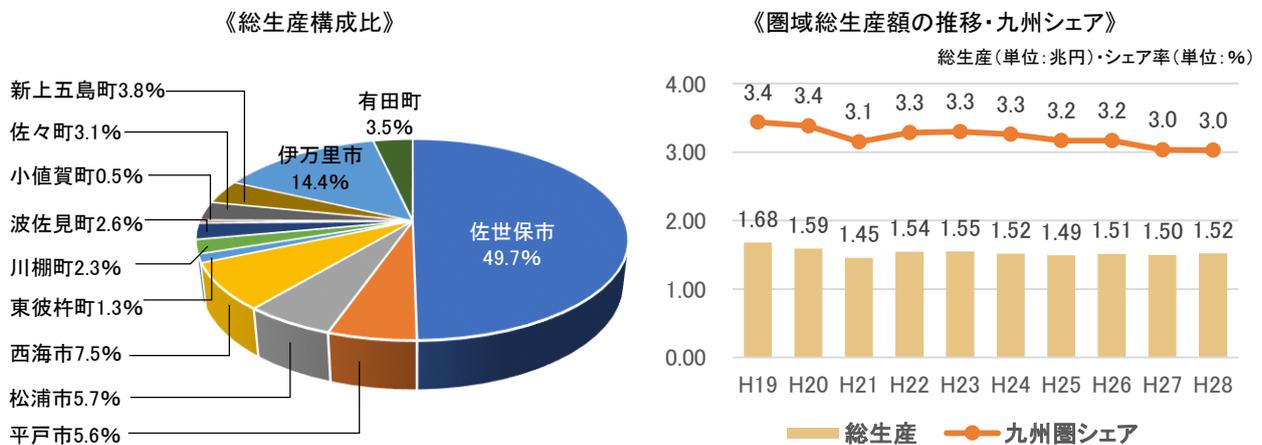
**3 圏域の産業の状況**

**(1)産業全体**

**①総生産・市民所得**

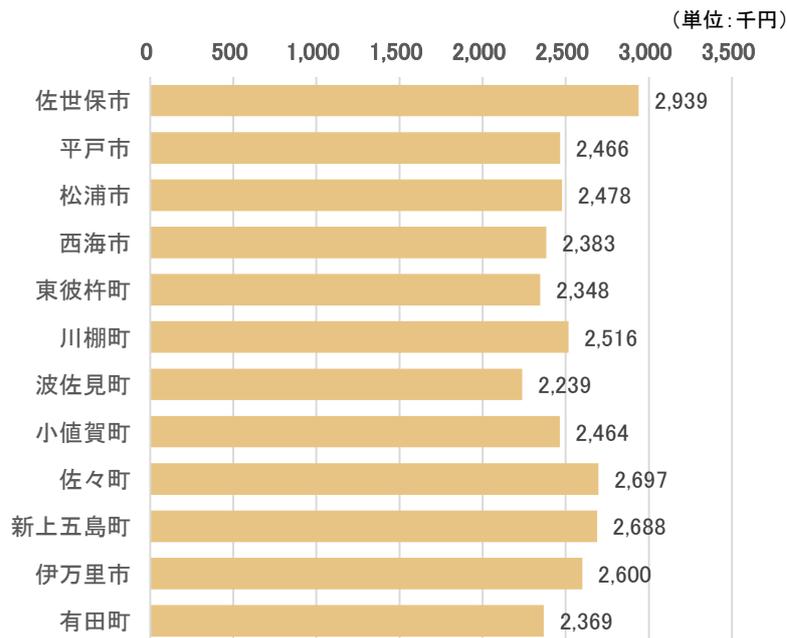
本圏域の総生産は1.5兆円前後、圏域の総生産の半分は佐世保市、次に伊万里市が大きなウェイトを占めています。また、九州圏（沖縄含む）におけるシェアは3.0%程度で推移しています。一方、本圏域における納税義務者1人当たりの課税対象所得は佐世保市が最も多く、2位は佐々町となっています。

〔図表6-1 圏域の総生産〕



(出典)長崎県・佐賀県「平成28年度市町民経済計算」

〔図表6-2 圏域の納税義務者1人当たりの課税対象所得(平成30年度課税)〕



※納税義務者1人当たりの課税対象所得＝課税所得÷納税義務者数

(出典)「平成30年度市町村税課税状況等の調」

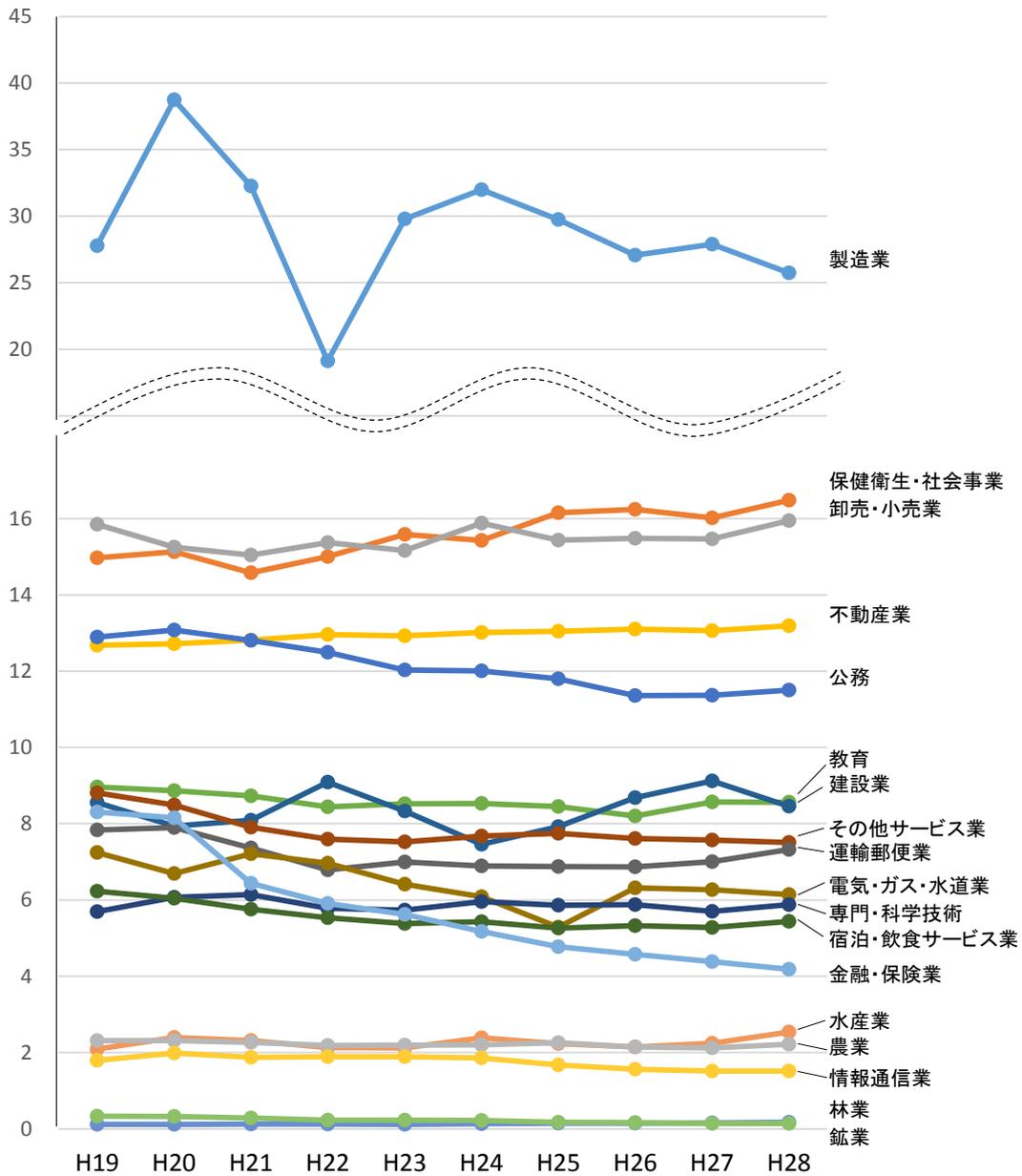
### 3 圏域の産業の状況

#### ②総生産(経済活動別)

本圏域の総生産を経済活動別に見ると、「製造業」が最も多く、「保健衛生・社会事業」、「卸売・小売業」の順で続いています。年度ごとの推移として、「製造業」におけるリーマンショックの影響による落ち込みが顕著となっていますが、その他の産業は概ね長期的に横ばい傾向となっています。

〔図表6-3 圏域の総生産(経済活動別)〕

(単位:百億円)

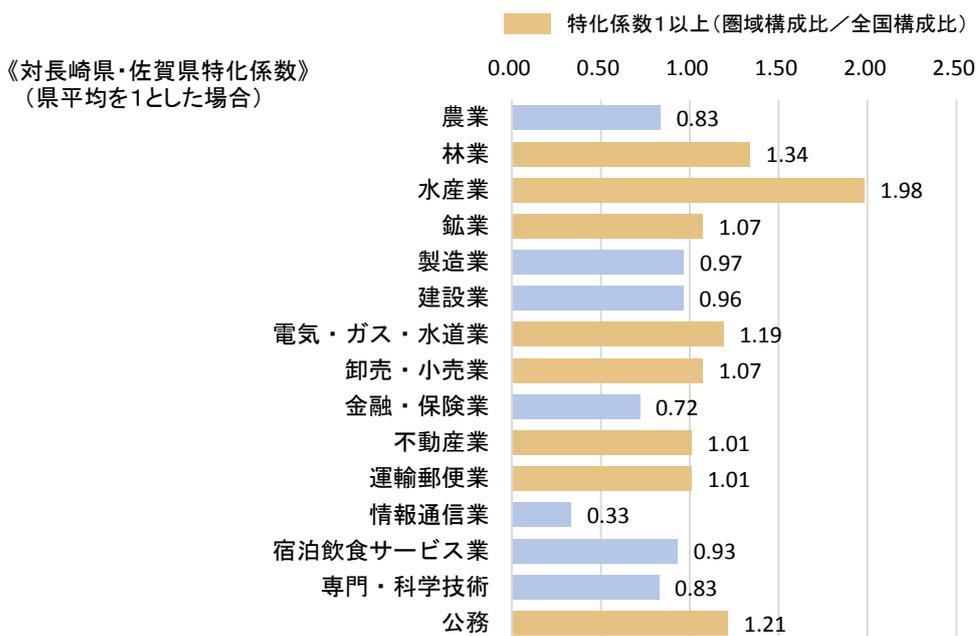
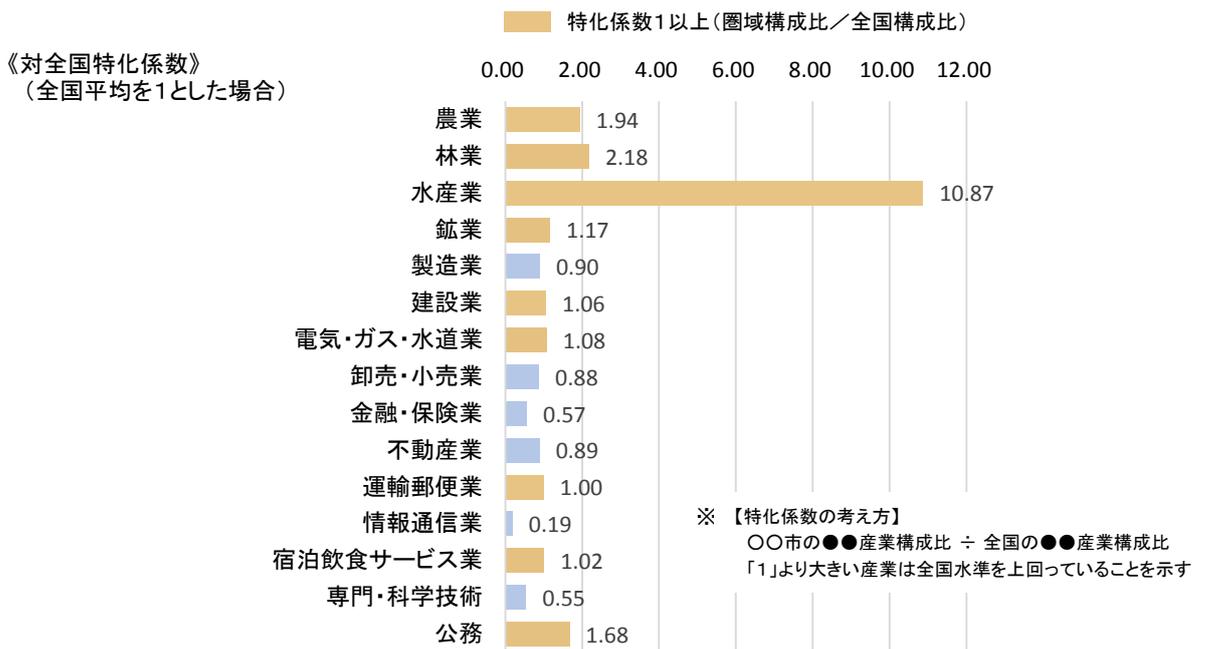


(出典)長崎県・佐賀県「平成28年度市町民経済計算」

### ③総生産(産業別:特化係数)

産業別の特化傾向を見ると、全国比較では、第一次産業である水産業の特化が著しくなっています。また、長崎県・佐賀県比較では水産業、林業、公務等に特化傾向が見られます。

〔図表6-4 圏域の総生産(産業別特化係数)〕

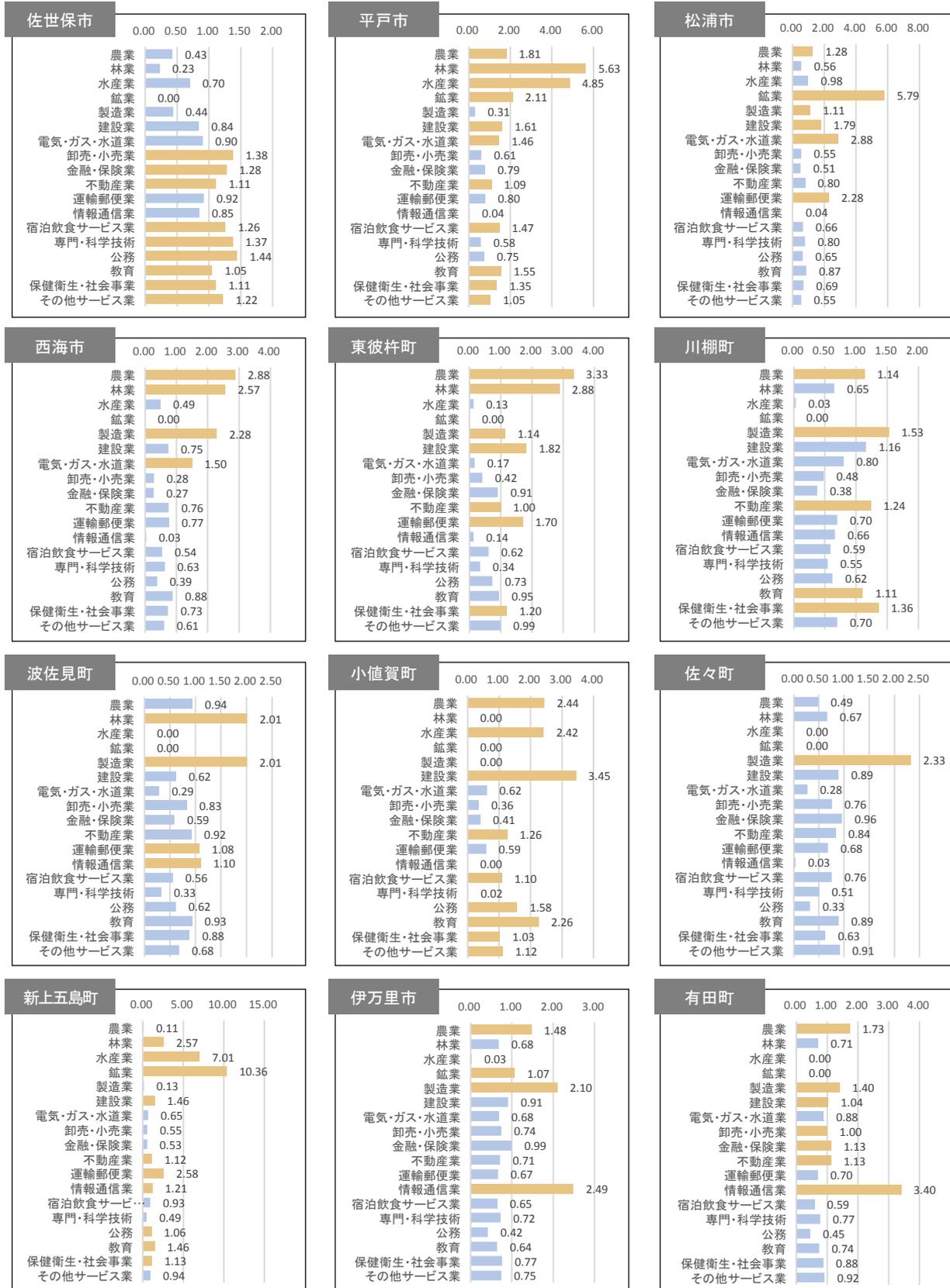


(出典)長崎県・佐賀県「平成28年度市町民経済計算」

### 3 圏域の産業の状況

〔図表6-5 圏域の総生産(産業別特化係数)構成市町別〕

■ 特化係数1以上(自市町構成比/圏域構成比)



(出典)長崎県・佐賀県「平成28年度市町民経済計算」

### 3 圏域の産業の状況

#### ④産業別事業所数及び従業員数

本圏域内の12市町合計の総事業所数は23,941箇所、総従業員数は212,274人で、そのうち事業所数47.8%、従業員数52.7%が佐世保市に集中しています。

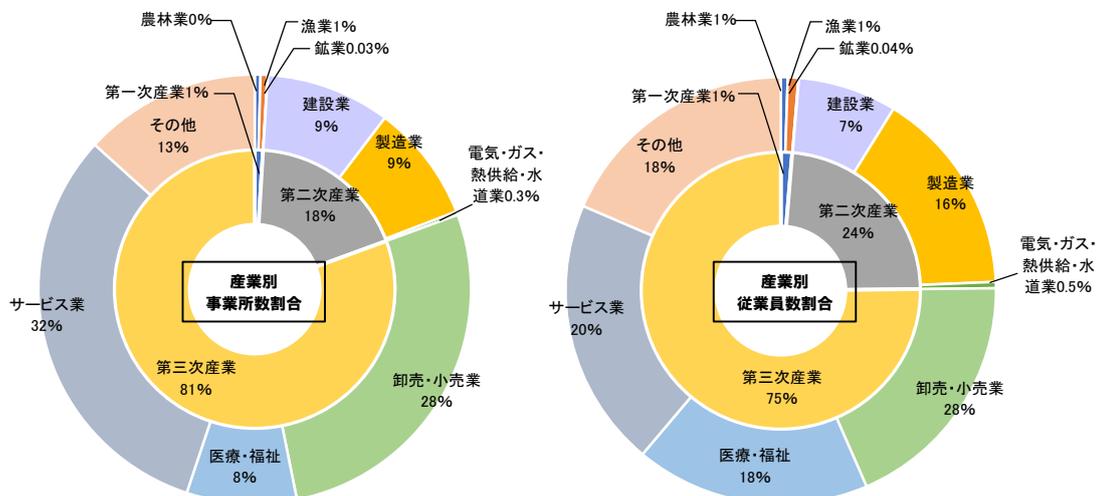
その中で、第一次産業では佐世保市、平戸市、松浦市、西海市に事業所及び従業員の集積が見られるほか、第二次産業では佐世保市、伊万里市、波佐見町の集積が大きくなっており、第三次産業でも佐世保市、伊万里市の集積が大きくなっています。

〔図表7-1 構成市町の産業別事業所数及び従業員数(産業別)〕

	合計		第一次産業		第二次産業		第三次産業	
	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数
佐世保市	11,435	111,903	63	1,071	1,629	17,426	9,743	93,406
平戸市	1,853	12,255	31	400	346	2,517	1,476	9,338
松浦市	1,135	9,524	44	348	189	2,988	902	6,188
西海市	1,254	11,301	36	356	240	3,714	978	7,231
東彼杵町	316	3,030	2	14	81	802	233	2,214
川棚町	578	4,934	1	8	112	1,570	465	3,356
波佐見町	992	7,124	2	21	469	3,535	521	3,568
小値賀町	180	819	3	16	29	121	148	682
佐々町	704	6,139	3	39	124	2,259	577	3,841
新上五島町	1,338	7,590	24	274	246	1,311	1,068	6,005
伊万里市	2,811	28,330	14	208	550	9,963	2,247	18,159
有田町	1,345	9,325	3	37	398	3,684	944	5,604
合計	23,941	212,274	226	2,792	4,413	49,890	19,302	159,592

(出典)「平成26年経済センサス基礎調査」

〔図表7-2 圏域の産業別事業所数割合及び従業員数割合(産業別)〕



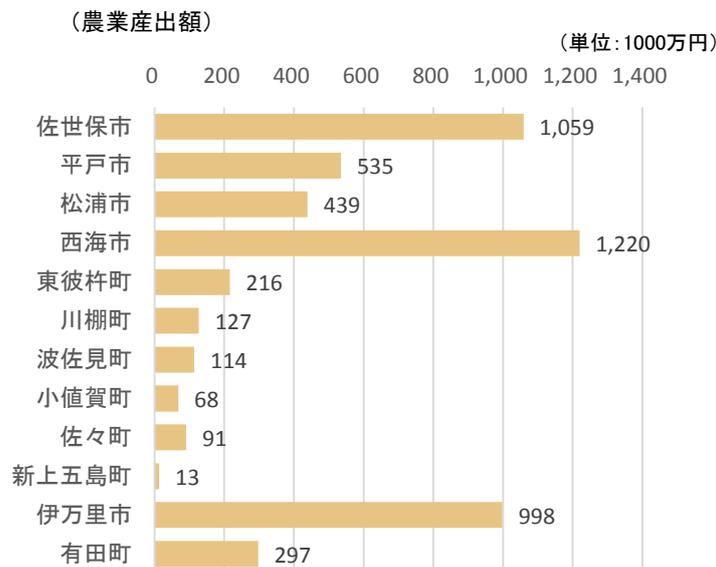
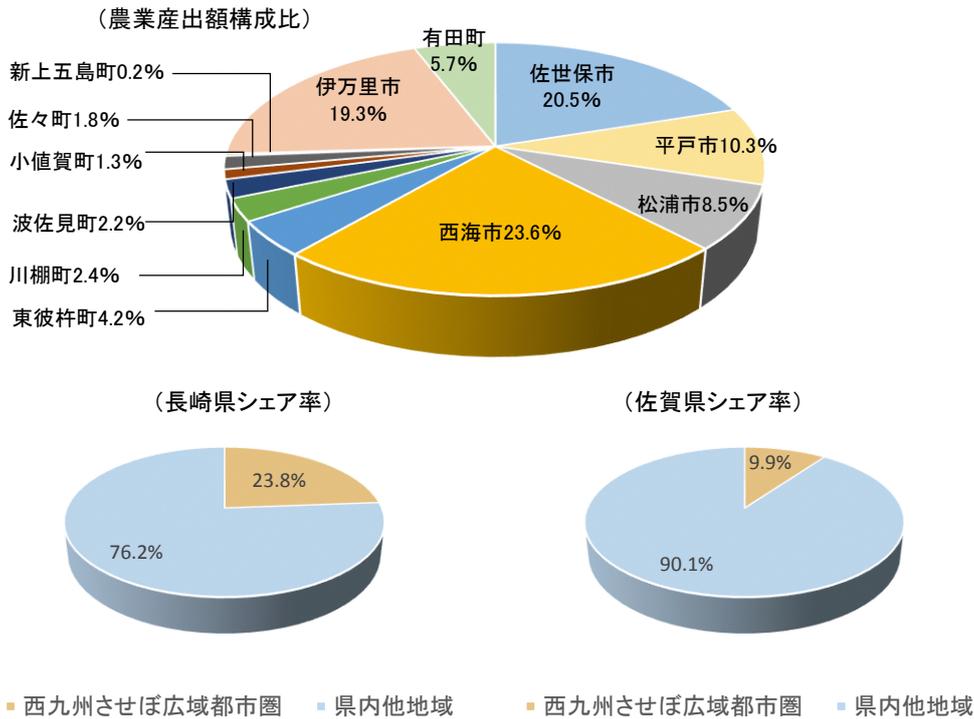
(出典)「平成26年経済センサス基礎調査」

## (2) 農林業

### ① 農業算出額

農業産出額では西海市が圏域内シェア率23.6%で最も多く、次に佐世保市、伊万里市が続いています。

〔図表8-1 圏域の農業産出額〕



(出典) 農林水産省「平成29年市町村別農業産出額(推計)」

## 3 圏域の産業の状況

〔図表8-2 品目別農業産出額 上位5品目：構成市町別〕

(単位：1000万円)

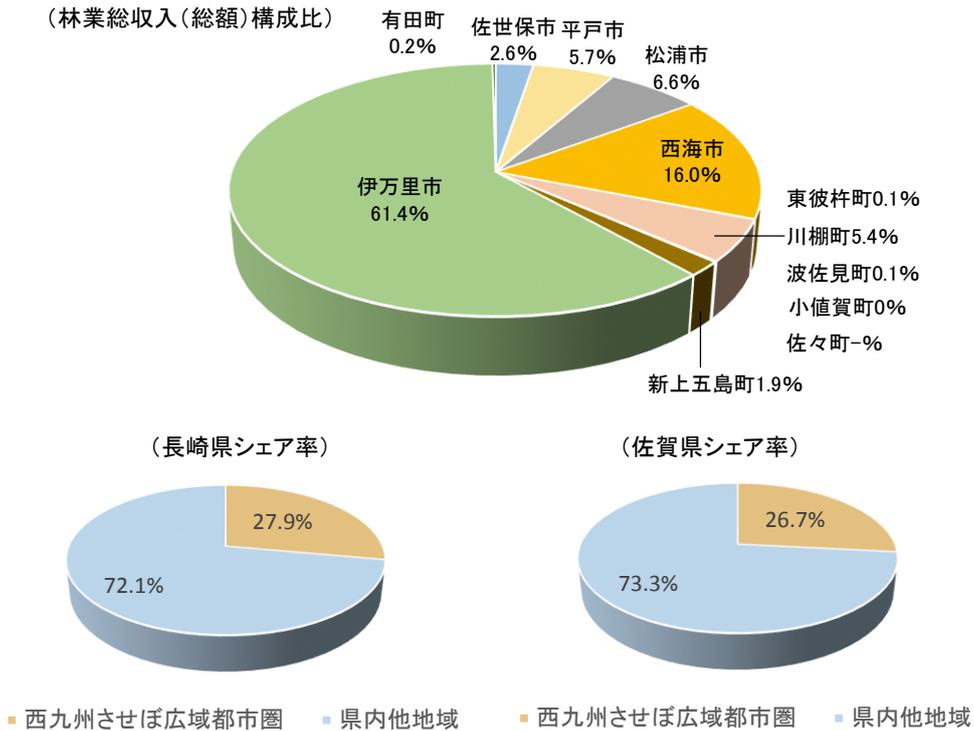
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
佐世保市	果実(241)	肉用牛(224)	野菜(200)	米(154)	花き(103)
平戸市	肉用牛(208)	野菜(125)	米(120)	いも類(19) 鶏(19)	工芸農作物(18)
松浦市	肉用牛(128)	米(82)	野菜(77)	工芸農作物(34)	鶏(25)
西海市	豚(473)	野菜(246)	果実(223)	肉用牛(72)	鶏(61)
東彼杵町	工芸農作物(53)	野菜(43)	米(36)	肉用牛(32)	果実(20)
川棚町	肉用牛(41)	野菜(24)	花き(22)	果実(19)	米(14)
波佐見町	米(43)	肉用牛(24)	野菜(21)	鶏(12)	果実(4) 工芸農作物(4)
小値賀町	肉用牛(44)	野菜(10) 米(10)	いも類(2)	豆類(1)	-
佐々町	肉用牛(34)	野菜(20)	米(19)	鶏(11)	工芸農作物(4)
新上五島町	肉用牛(6)	野菜(3)	いも類(2)	米(1)	-
伊万里市	肉用牛(250)	果実(232)	野菜(182)	米(166)	鶏(138)
有田町	鶏(166)	肉用牛(45)	米(39)	野菜(21)	果実(10)

(出典)農林水産省「平成29年市町村別農業産出額(推計)」

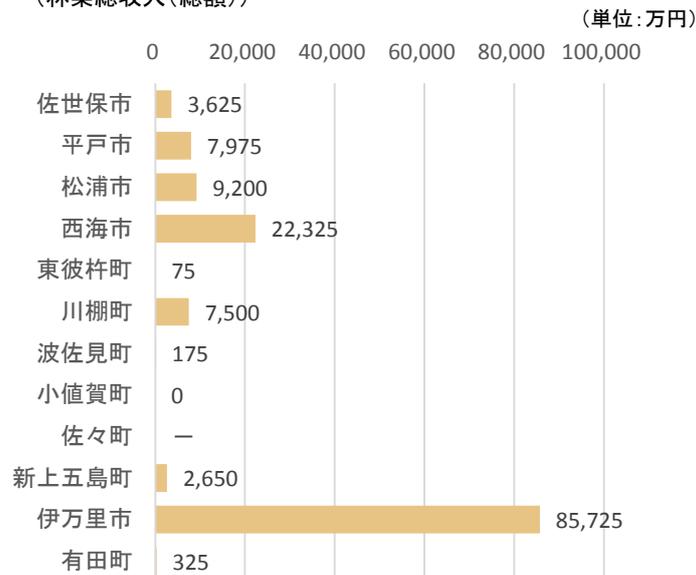
②林業総収入

林業総収入では、伊万里市が圏域内シェア率61.4%で最も多く、次に西海市が続いています。また、佐賀県構成市町の自県内シェア率も高くなっています。

〔図表8-3 圏域の林業総収入〕



(林業総収入(総額))



(出典)2015農林水産省「農林業センサス」再編加工

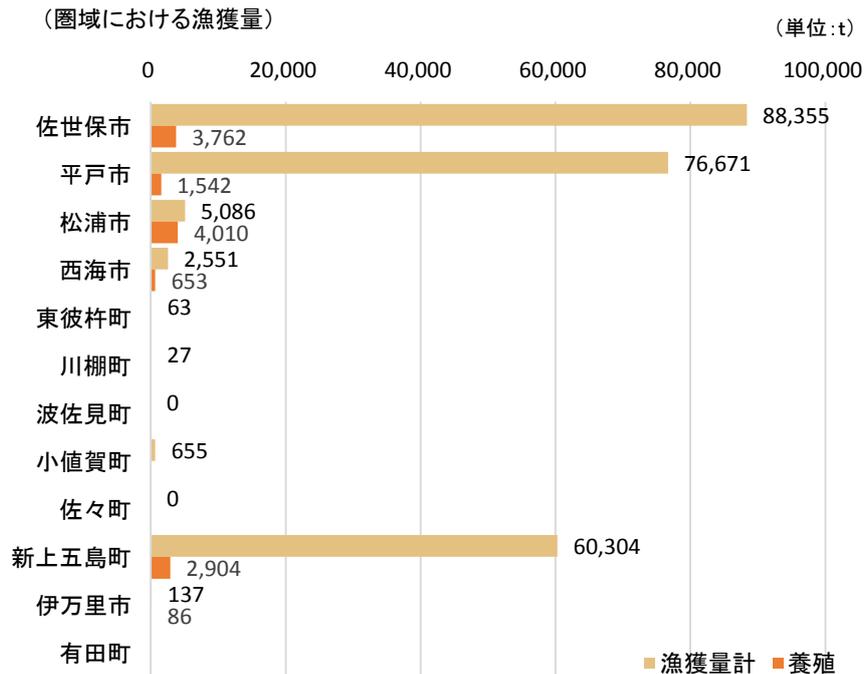
※佐々町については、調査対象者が少数などの理由により、秘密保護の観点から、統計数値が公表されていない。

### 3 圏域の産業の状況

#### (3)水産業

漁獲量については佐世保市が最も多く、続いて平戸市、新上五島町のシェアが高くなっています。また、養殖業については松浦市、佐世保市、新上五島町の順にシェアが高くなっています。

〔図表9-1 圏域の海面・養殖漁業漁獲量〕



(魚種別・海面漁獲量 上位5種)

市町村	魚種	漁獲量 (t)	市町村	魚種	漁獲量 (t)	市町村	魚種	漁獲量 (t)
佐世保市	かたくちいわし	22,214	平戸市	さば類	40,176	松浦市	かたくちいわし	1,829
	さば類	18,829		まあじ	11,691		その他の魚類	976
	まあじ	17,497		まいわし	11,173		まあじ	556
	うるめいわし	11,564		その他の魚類	4,712		まだい	344
	まいわし	7,229		ぶり類	4,195		その他の海藻類	292
西海市	かたくちいわし	1,090	東彼杵町	その他の水産動物類	21	川棚町	その他の水産動物類	11
	その他の魚類	219		その他の魚類	8		うに類	3
	さば類	187		かざみ類	7		その他の魚類	2
	まあじ	161		その他のいか類	7		その他のえび類	2
	いさき	104		うに類	7		その他のいか類	2
小値賀町	いさき	165	新上五島町	さば類	25,764	伊万里市	その他の魚類	80
	ぶり類	156		まあじ	18,016		かたくちいわし	26
	その他の魚類	153		ぶり類	7,607		まあじ	17
	たちうお	47		その他の魚類	4,364		しらす	4
	その他のいか類	23		うるめいわし	1,533		あなご類、その他の水産動物類	2

(魚種別・養殖漁獲量 上位5種)

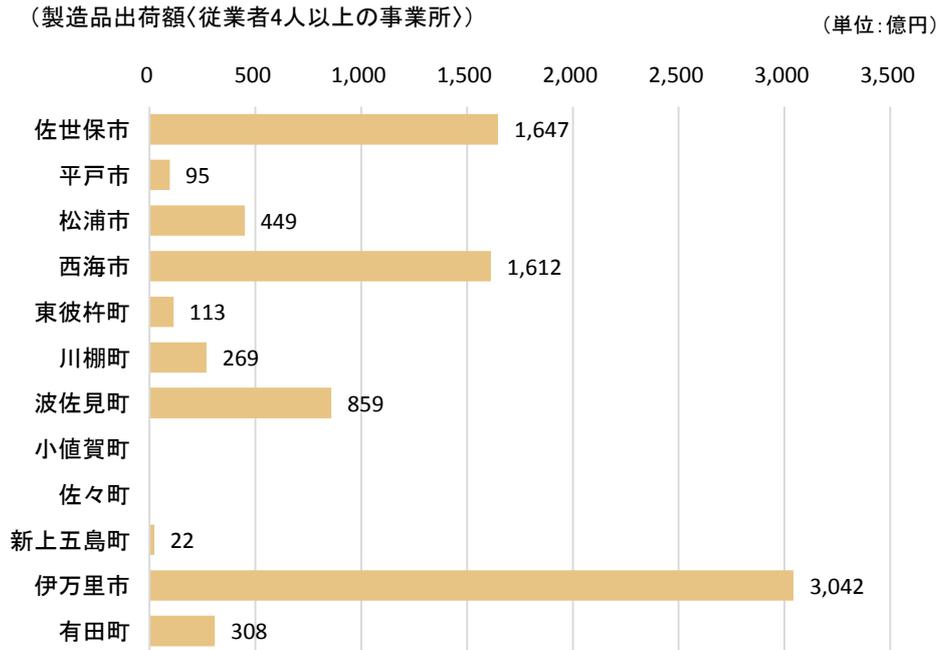
市町村	魚種	養殖量 (t)	市町村	魚種	養殖量 (t)	市町村	魚種	養殖量 (t)
佐世保市	ぶり	1,019	平戸市	ぶり	1,016	松浦市	ぶり	1,895
	真円真珠(大玉)	915		ふぐ類	129		くろまぐろ	720
	かき類(殻付き)	536		真円真珠(大玉)	128		ふぐ類	595
	まだい	502		まだい	118		まだい	383
	その他のぶり類	499		ひらめ	115		その他の魚類	51
西海市	わかめ類	233	新上五島町	ぶり	1,790	伊万里市	ふぐ類	28
	真円真珠(大玉)	62		くろまぐろ	505		かき類(殻付き)	12
	かき類(殻付き)	49		その他のぶり類	377		—	—
	—	—		かき類(殻付き)	215		—	—
	—	—		—	—		—	—

(出典)「平成29年海面漁業生産統計調査」

(4)製造業

造船業（輸送用機械器具製造業）を中心とした工業集積が進んでいます。圏域内では伊万里市が最も多く、続いて佐世保市、西海市が高いシェアを占めています。

〔図表10-1 圏域の製造品出荷額〕



※佐々町、小値賀町については、調査対象者が少数などの理由により、秘密保護の観点から、統計数値が公表されていない。

(分野別製造品出荷額<従業者4人以上の事業所>)

(単位:億円)

市町村	製造業	出荷額 (億円)	市町村	製造業	出荷額 (億円)	市町村	製造業	出荷額 (億円)
佐世保市	輸送用機械器具製造業	418	平戸市	食品製造業	28	松浦市	食品製造業	127
	食品製造業	284		輸送用機械器具製造業	27		輸送用機械器具製造業	74
	はん用機械器具製造業	180		窯業・土石製品製造業	11		繊維工業	45
	鉄鋼業	155		プラスチック製品製造業	9		-	-
	飲料・たばこ・飼料製造業	116		繊維工業	6		-	-
西海市	輸送用機械器具製造業	1,496	東彼杵町	-	-	川棚町	-	-
	繊維工業	13		-	-		-	-
	食品製造業	8		-	-		-	-
	窯業・土石製品製造業	4		-	-		-	-
金属製品製造業	1	-	-	-	-	-		
波佐見町	-	-	小値賀町	-	-	佐々町	-	-
	-	-		-	-		-	-
	-	-		-	-		-	-
	-	-		-	-		-	-
新上五島町	-	-	伊万里市	電子部品・デバイス・電子回路製造業	1,318	有田町	-	-
	-	-		輸送用機械器具製造業	1,073		-	-
	-	-		食品製造業	175		-	-
	-	-		木材・木製品製造業	148		-	-
-	-	電気機械器具製造業	86	-	-			

(出典)「平成30年工業統計調査(従業員4人以上の事業所)」

### 3 圏域の産業の状況

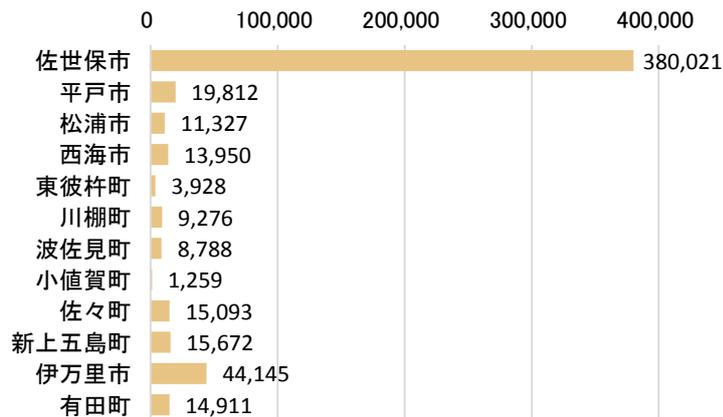
#### (5)小売業

##### ①小売業年間販売額

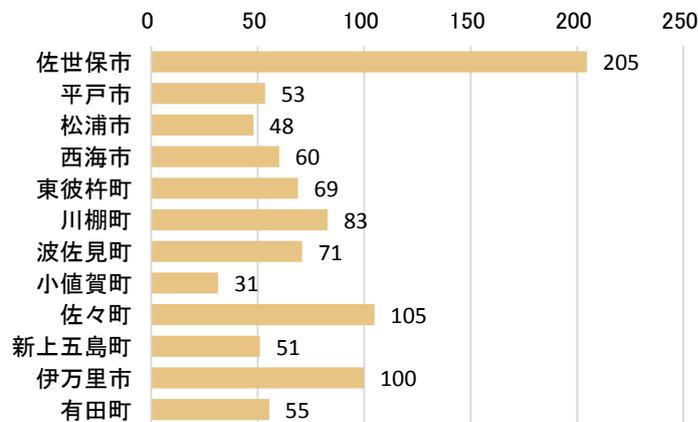
佐世保市が年間商品販売額（総額、店舗あたり、従業者あたり）は最も多くなっています。事業所あたりの年間商品販売額は佐々町や伊万里市で高くなっています。

〔図表11-1 圏域の小売年間販売額〕

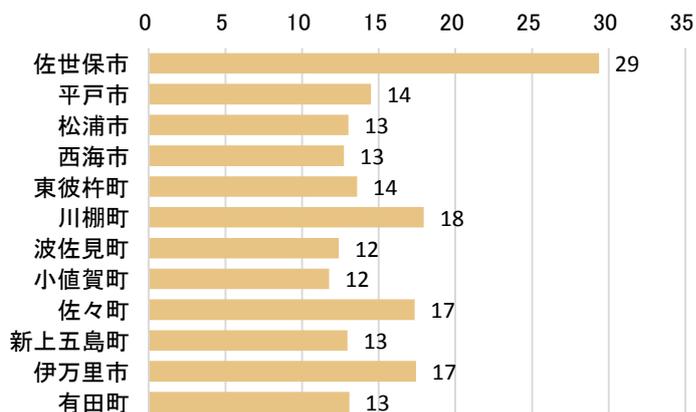
(2014年：年間販売額) (単位：百万円)



(2014年：事業所あたり年間販売額) (単位：百万円)



(2014年：従業者あたり年間販売額) (単位：百万円)



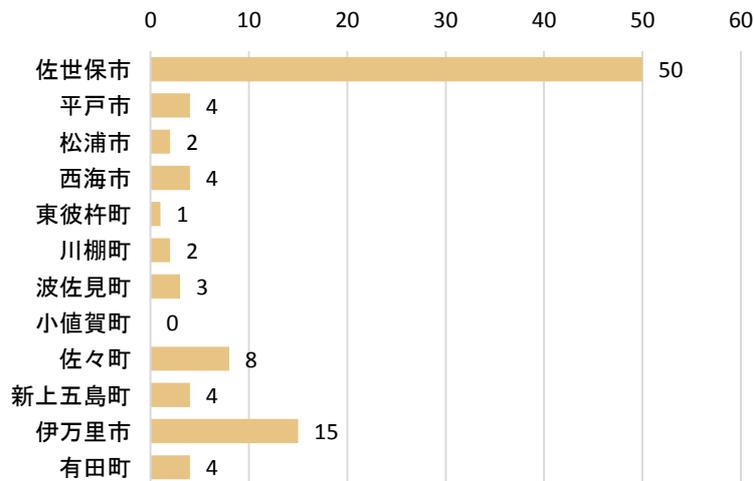
(出典)「平成26年商業統計調査」

②大型小売店舗数

大型小売店舗数は、佐世保市が最も多くなっています、次に伊万里市が続いています。

〔図表11-2 圏域の大型小売店舗数〕

(大型小売店舗数(店舗面積1000平方メートル超)) (単位:店舗)



(主な大型小売店舗)

佐世保市	ショッピングセンター	イオン大塔店	
	ショッピングセンター	させぼ五番街	
	ホームセンター	コメリホームセンター佐世保店	
	総合スーパー	イオン佐世保店	
	百貨店	佐世保玉麗	
	ホームセンター	ホームセンターコーナン大塔店	
	寄合百貨店	ハウスデポス	
	ショッピングセンター	ヤマダ電機テックランド佐世保本店	
	専門店	西沢ショッピングセンター	
	総合スーパー	イオン佐世保白岳店	
	専門店	アルパ西沢	
	ホームセンター	ホームワイド・マックスパリュ早岐店	
	食品スーパー	エレナレスタ店	
	食品スーパー	エレナ大野店	
	ホームセンター	ホームプラザナフコ佐世保東店	
	専門店	ニトリ佐世保店	
	食品スーパー	ララプレイス佐世保	
	専門店	ベスト電器佐世保本店、ゲオ佐世保大塔店	
	ホームセンター	ホームプラザナフコ佐世保みなとインター店家具館	
	専門店	ヒマヤススポーツ&ゴルフ佐世保店	
	食品スーパー	まるたか生鮮市場早岐店	
	食品スーパー	マックスパリュ白岳店	
	総合スーパー	スーパーセンタートライアル佐世保大和店	
	専門店	エディオン佐世保店	
	総合スーパー	ドン・キホーテ佐世保店	
	食品スーパー	エレナ相浦店	
	食品スーパー	エレナ大塔店	
	専門店	近藤家具大塔店	
	専門店	ダイソー佐世保矢峰店、西松屋佐世保矢峰店	
	食品スーパー	マックスパリュ中里店	
	食品スーパー	マックスパリュ池野店	
	専門店	リビングミュージアム・リム	
	総合スーパー	ダイレックス矢峰店	
	総合スーパー	ダイレックス佐世保店	
	専門店	ディスカウントドラッグコスモス鹿町店	
	専門店	ディスカウントドラッグコスモス中里店	
	食品スーパー	エレナ天神店	
	専門店	シュールプラザ矢峰店	
	食品スーパー	まつばや吉井店	
	専門店	ドラッグストアアモリ白岳店	
専門店	ヴェニス本館		
専門店	ハードオフ・オフハウス佐世保店		
専門店	ディスカウントドラッグコスモス早苗店		
専門店	ディスカウントドラッグコスモス日野店		
食品スーパー	まつばや相浦店		
ホームセンター	ホームセンターユートク相浦店		
専門店	プリンスししや早岐店		
食品スーパー	マルキョウ大宮店		
専門店	チヨダ		
専門店	ドラッグストアアモリ矢峰店		
平戸市	専門店	ドラッグストアアモリ平戸店	
	専門店	ディスカウントドラッグコスモス平戸店	
	専門店	ベスト電器平戸店	
	総合スーパー	ダイレックス平戸店	
	松浦市	専門店	ディスカウントドラッグコスモス松浦店
		総合スーパー	ハイマート松浦店
	西海市	ホームセンター	ホームプラザナフコ西海道
		寄合百貨店	大島薬市商店街
		専門店	ディスカウントドラッグコスモス西海道
	東彼杵町	寄合百貨店	大瀬戸ショッピング
ホームセンター		コメリハード&グリーン東彼杵店	
川棚町	専門店	ディスカウントドラッグコスモス川棚店、グリーン東彼新市場	
	食品スーパー	エレナ川棚店	
波佐見町	ホームセンター	ホームプラザナフコ波佐見店	
	食品スーパー	エレナ波佐見店	
	専門店	ディスカウントドラッグコスモス波佐見店	
佐々町	食品スーパー	マックスパリュ佐々店	
	ホームセンター	ホームプラザナフコ佐々店	
	食品スーパー	エレナ佐々店、しまむら佐々店	
	専門店	ディスカウントドラッグコスモス佐々店	
	専門店	ライフスタイルマーケット	
	専門店	ドラッグストアアモリ鴨川店	
新上五島町	専門店	佐々ショッピングデパート	
	総合スーパー	ダイレックス佐々店	
	ホームセンター	テラダホームセンター	
	食品スーパー	KAMITY	
	ホームセンター	オサダ上五島店	
伊万里市	ホームセンター	ホームセンタービッグセライ上五島店	
	ホームセンター	グッドイ伊万里店	
	ホームセンター	ホームプラザナフコ伊万里店	
	総合スーパー	ミスターマックス伊万里店	
	ホームセンター	ホームセンターユートク伊万里店	
	食品スーパー	マックスパリュ伊万里駅前店	
	総合スーパー	ダイレックス伊万里松島店、ダイソー伊万里松島店	
	食品スーパー	エレナ伊万里店	
	専門店	ベスト電器伊万里店	
	専門店	TSUTAYA伊万里店	
	専門店	ヤマダ電機テックランド伊万里店	
	食品スーパー	ドラッグ&フレッシュユートク伊万里店	
有田町	専門店	ディスカウントドラッグコスモス伊万里中央店	
	専門店	ディスカウントドラッグコスモス伊万里店	
	専門店	ブックオフ伊万里店	
	総合スーパー	ダイレックス伊万里店	
	ホームセンター	ホームセンターユートク有田店	
ホームセンター	ホームプラザナフコ有田店		
食品スーパー	マックスパリュ有田店		
専門店	ディスカウントドラッグコスモス佐賀有田店		

(出典)「大型店舗総覧2018(店舗面積1000平方メートル超)」

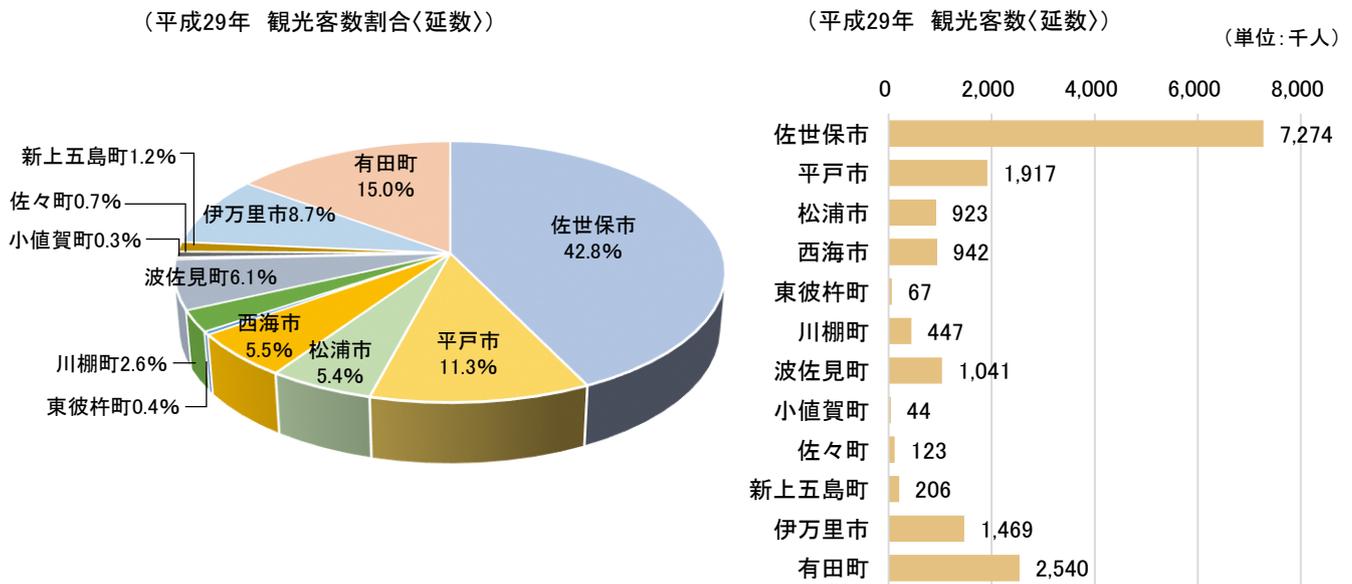
### 3 圏域の産業の状況

#### (6)観光

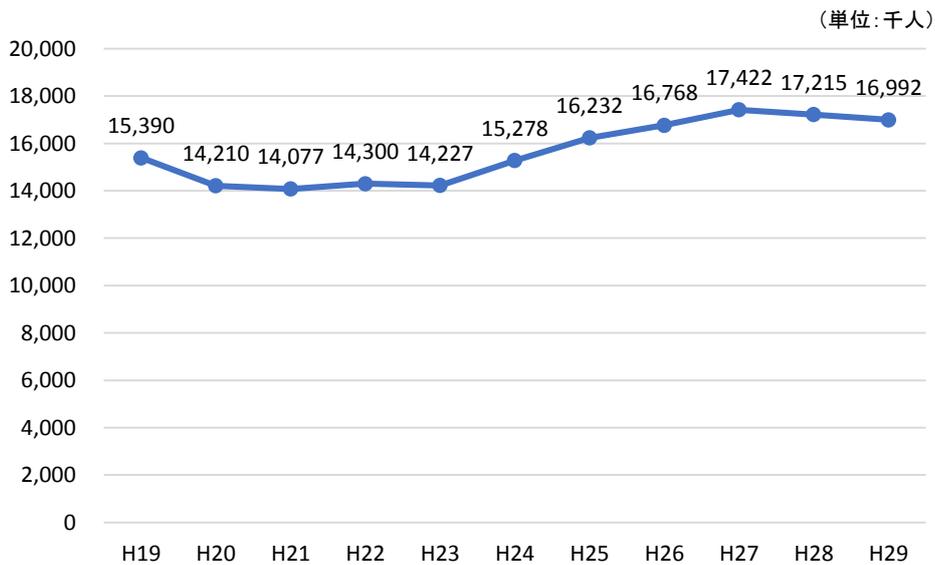
##### ①観光客数

佐世保市が圏域全体の観光客数割合42.8%で最も多く、圏域全体では平成27年以降、微減傾向となっています。

〔図表12-1 圏域への観光客数〕



(圏域の観光客数推移<延数>)



(出典)「平成30年長崎県観光統計」、「平成29年佐賀県観光客動態調査」

〔図表12-2 都道府県別・観光客数順位(平成30年1月～12月)※多い順〕

佐世保市		平戸市		松浦市	
1位	福岡県	1位	福岡県	1位	福岡県
2位	東京都	2位	長崎県	2位	長崎県
3位	大阪府	3位	東京都	3位	東京都
4位	愛知県	4位	熊本県	4位	栃木県
5位	神奈川県	5位	神奈川県	5位	広島県
6位	兵庫県	6位	埼玉県	6位	熊本県
7位	埼玉県	7位	大阪府	7位	愛媛県
8位	広島県	8位	佐賀県	8位	大阪府
9位	千葉県	9位	愛知県	9位	佐賀県
10位	山口県	10位	広島県	10位	埼玉県

西海市		川棚町		波佐見町	
1位	福岡県	1位	福岡県	1位	福岡県
2位	東京都	2位	長崎県	2位	長崎県
3位	大阪府	3位	山口県	3位	大分県
4位	愛知県	4位	熊本県	4位	熊本県
5位	佐賀県	5位	神奈川県	5位	東京都
6位	京都府	6位	佐賀県	6位	愛知県
7位	兵庫県	7位	大分県	7位	千葉県
8位	神奈川県	8位	鹿児島県	8位	広島県
9位	岡山県	9位	広島県	9位	北海道
10位	茨城県	10位	千葉県	10位	宮崎県

新上五島町		伊万里市	
1位	東京都	1位	東京都
2位	愛知県	2位	福岡県
3位	福岡県	3位	神奈川県
4位	神奈川県	4位	愛知県
5位	大阪府	5位	大阪府
6位	京都府	6位	長崎県
7位	千葉県	7位	兵庫県
8位	埼玉県	8位	埼玉県
9位	兵庫県	9位	佐賀県
10位	北海道	10位	広島県

(出典)観光予報プラットフォーム(平成30年1月～12月)  
 ※東彼杵町、小値賀町、佐々町、有田町はデータ無しのため非掲載とした。

## 4 圏域の都市機能の集積状況

### (1)医療

圏域全体の病院数は55施設、一般診療所は408施設、歯科診療所は233施設となっており、人口1万人あたりの医師数は佐世保市が最も多く、次に川棚町となっています。

〔図表13-1 圏域の医療機関数〕 (単位:施設)

市町名	病院			一般診療所	歯科診療所	人口1万人あたり医師数(人/万人)
	一般	精神	合計			
佐世保市	18	6	24	224	134	27.2
平戸市	6	1	7	18	12	16.0
松浦市	3	0	3	18	7	8.6
西海市	1	1	2	23	11	13.2
佐々町	0	1	1	11	7	10.3
川棚町	1	0	1	13	6	22.0
波佐見町	1	1	2	12	7	16.1
東彼杵町	1	0	1	7	4	16.9
小値賀町	0	0	0	2	1	3.9
新上五島町	1	0	1	13	11	16.2
伊万里市	8	2	10	41	24	16.7
有田町	1	0	1	19	9	17.4
合計	41	12	53	401	233	21.5

### (主要指定病院)

項目	市町名	病院名		
三次救急医療機関	佐世保市	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター		
	佐世保市	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター／独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院／地方独立行政法人 北松中央病院／社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院／医療法人光省会 福田外科病院／国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院／医療法人アリス会 京町内科病院／医療法人雄人会 三川内病院／医療法人是心会 久保内科病院、特定医療法人雄博会 千住病院／医療法人篤信会 杏林病院／医療法人わかば会 徳町浜野病院		
		平戸市	国民健康保険 平戸市民病院／医療法人青洲会 青洲会病院／平戸市立 生月病院／医療法人医理会 柿添病院	
		松浦市	医療法人社団壮志会 押測医院	
		川棚町	独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター	
		小値賀町	小値賀町国民健康保険診療所	
		新上五島町	長崎県上五島病院	
		伊万里市	医療法人社団再整会 口石病院／医療法人幸善会 前田病院／医療法人二期会 小島病院／医療法人朋友会 山口病院／医療法人精仁会 隅田病院／社会医療法人謙仁会 山元記念病院／医療法人光仁会 西田病院／独立行政法人地域医療機能推進機構 伊万里松浦病院	
			有田町	伊万里有田共立病院
			佐世保市	佐世保市立急病診療所
初期救急医療体制 (休日夜間急患センター)	伊万里市	伊万里休日・夜間急患医療センター		
地域周産期母子医療センター	佐世保市	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター		
災害拠点病院	佐世保市	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター／独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院／地方独立行政法人 北松中央病院		
	新上五島町	長崎県上五島病院		
	有田町	伊万里有田共立病院		
長崎DMT指定病院	佐世保市	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター／独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院／地方独立行政法人 北松中央病院		
	川棚町	独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター		
	新上五島町	長崎県上五島病院		
がん診療連携拠点病院	佐世保市	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター		
がん診療連携推進病院	佐世保市	社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院		
高次脳卒中センター	佐世保市	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター		
地域脳卒中センター	佐世保市	独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院／社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院		
認知症疾患医療センター	佐世保市	社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院		

(出典)厚生労働省「平成30年度医療施設調査」、「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」、「平成27年国勢調査」

## (2) 高等教育機関(大学・短期大学・高等専門学校・専修学校)

圏域における高等教育機関は14施設であり、学生総数（専修学校を除く）は約5,600名となっています。

〔図表14-1 圏域の高等教育機関〕

分類	所在地	名称	学部・学科	学生数	備考		
大学	公立	佐世保市	長崎県立大学佐世保校	経営学部 経営学科	437	平成30年 3月31日 現在	
				国際経営学科	192		
				地域創造学部 公共施設学科	372		
				実践経営学科	403		
				経済学部 経済学科	190		
				地域政策学科	170		
	私立	佐世保市	長崎国際大学	人間社会学部 国際観光学科	980		令和元年 5月1日 現在
				社会福祉学科	272		
				健康管理学部 健康栄養学科	331		
国立	有田町	佐賀大学	薬学部 薬学科	739	27	大学聞き 取り調査	
			芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科 (有田セラミック分野)				
短期大学	私立	佐世保市	長崎短期大学	食物科	86	491	令和元年 5月1日 現在
				保育学科	245		
				国際コミュニケーション学科	144		
				専攻科	16		
高等 専門学校	国立	佐世保市	佐世保工業高等専門学校	機械工学科	213	836	令和元年 5月1日 現在
				電気電子工学科	203		
				電子制御工学科	210		
				物質工学科	210		
専修学校	【佐世保市】佐世保市看護専門学校／佐世保市医師会看護専門学校／九州文化学院歯科衛生士学院／こころ医療福祉専門学校佐世保校／九州文化学院調理師専門学校／佐世保美容専門学校／専門学校させば公務員オブビジネス／専門学校公務員ゼミナール佐世保校 【伊万里市】伊万里看護学校			9校	長崎県 佐賀県 HP		

(出典)「各大学等HP」、「長崎県・佐賀県HP」

## (3) 研究機関

圏域内には農業・水産業に関する試験研究機関が多く立地しています。

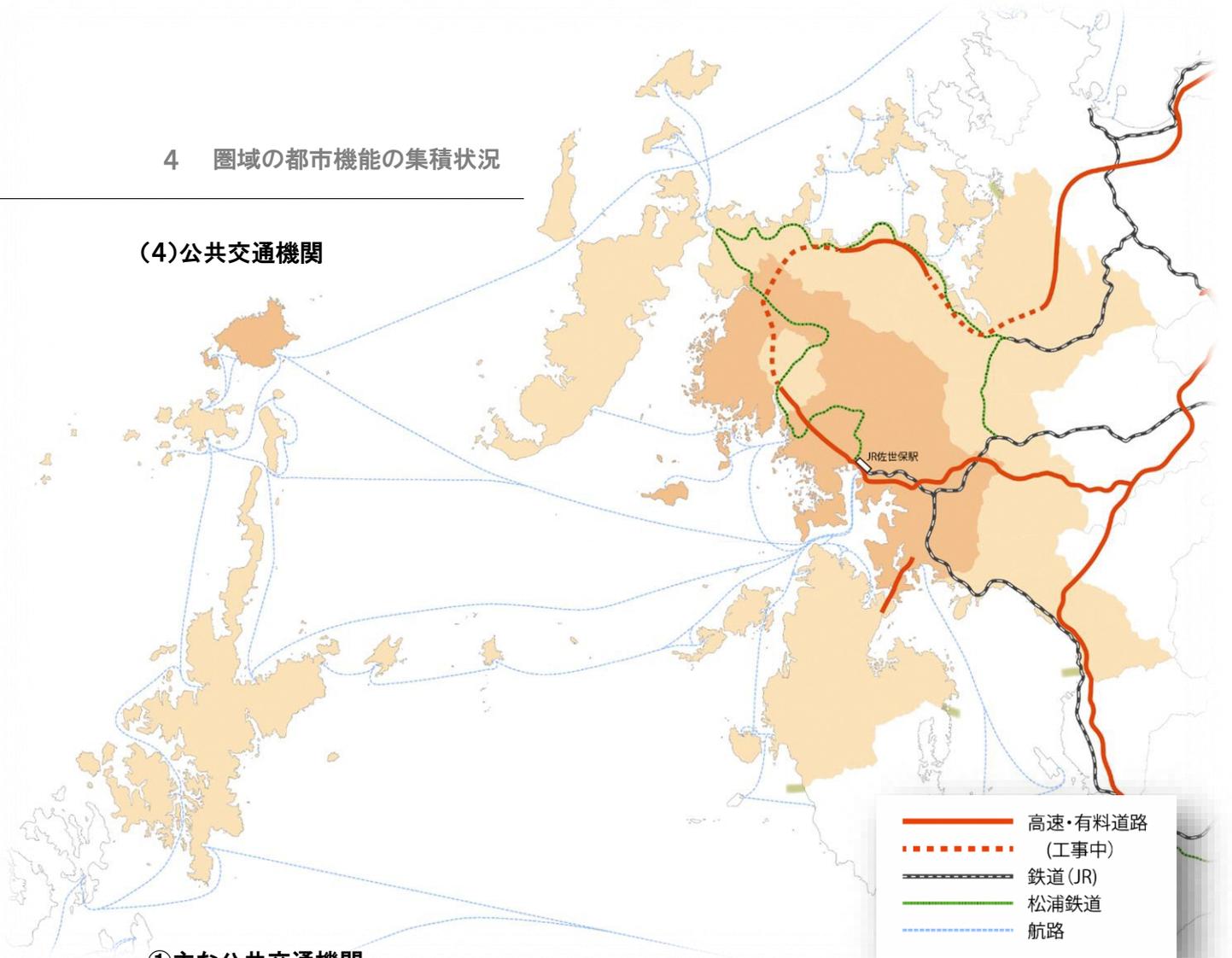
〔図表15-1 圏域の試験研究機関数〕

分類	所在地	施設名
水産	佐世保市	長崎県栽培漁業センター(県)
		佐世保市水産センター
		佐世保市宇久栽培漁業センター
	小値賀町	小値賀町アワビ種苗センター、小値賀町あわび館(水産加工室)
新上五島町	新上五島町アワビ中間育成施設	
農業	佐世保市	佐世保市食肉衛生検査所
	平戸市	長崎県肉用牛改良センター(県)
	西海市	西海市江島農産加工センター
		西海市西彼農村環境改善センター
	川棚町	長崎県川棚食肉衛生検査所(県)
	東彼杵町	長崎県農林技術開発センター茶業研究室(県)
	小値賀町	小値賀町担い手公社／小値賀町農産加工施設
	新上五島町	新上五島町家畜診療所
	窯業	波佐見町
有田町		佐賀県窯業技術センター(県)
		佐賀大学肥前セラミック研究センター
環境	西海市	西海市炭化センター
	伊万里市	佐賀大学海洋エネルギー研究センター

(出典) 公的試験研究施設(各自治体聞き取り調査)

## 4 圏域の都市機能の集積状況

### (4)公共交通機関



#### ①主な公共交通機関

種類	事業者名
バス	【佐世保市】西肥自動車(株)、させぼバス(株)、宇久観光バス(株) 【平戸市】西肥自動車(株)、生月自動車(有)、大島村産業(有)、(株)YOKARO、平戸市 【松浦市】西肥自動車(株)、(有)松浦観光、鷹島タクシー、昭和自動車(株) 【西海市】さいかい交通(株) 【東彼杵町】東彼杵町町営バス、JR九州バス(株) 【川棚町】西肥自動車(株) 【波佐見町】西肥自動車(株) 【小値賀町】小値賀交通(株) 【佐々町】西肥自動車(株) 【新上五島町】西肥自動車(株) 【伊万里市】西肥自動車(株)、昭和自動車(株)、いまりんバス 【有田町】西肥自動車(株)、有田町コミュニティバス
鉄道	九州旅客鉄道(JR)、松浦鉄道(MR)

(出典) 公的生活移動手段(各自治体聞き取り調査)

#### ②主な公共交通機関利用者数

公共交通機関	利用者数	出典年度
JR(佐世保駅のみ)	1,401,048人	平成30年度
MR(松浦鉄道全体)	2,841,473人	平成30年度
佐世保市営バス(させぼバス含む)	8,262,106人	平成30年度
西肥バス	8,467,999人	平成30年度

(出典) 公共交通機関事業者への調査

## ③クルーズ船乗船者数等

施設	乗船者数	寄港隻数	出典年度
佐世保港(佐世保市)	204,914人	98隻	平成30年度
青方港(新上五島町)	870人	3隻	平成30年度

(出典)佐世保市港湾部統計資料、各自治体聞き取り調査

## ④航路

圏域内市町間航路	運航主体	1日便数
佐世保 ~ 上五島航路	九州商船株式会社	17
友住 ~ 佐世保航路	崎戸商船株式会社	2
佐世保 ~ 大島・池島航路	西海沿岸商船株式会社	25
佐世保 ~ 横瀬・川内航路	瀬川汽船株式会社	22
津吉 ~ 相浦 ~ 佐世保航路	津吉商船株式会社	8
佐世保(神浦・寺島) ~ 柳航路	佐世保市	3

(出典)各運航主体HP等(佐世保→離島、離島→佐世保を分割計上)

## (5)主な工業団地

種類	市町名	施設名
主な工業団地	佐世保市	ウエストテクノ佐世保、佐世保相浦工業団地、佐世保テクノパーク、佐世保ニューテクノパーク、御橋工業団地
	平戸市	平戸市工業団地
	松浦市	松浦市東部工業団地、堂山工業団地、平野工業団地
	西海市	パールテクノ西海
	波佐見町	波佐見テクノパーク、波佐見町営工業団地
	東彼杵町	東そのぎグリーンテクノパーク、赤木工業団地
	伊万里市	伊万里団地、久原工業団地、里工業団地、七ツ島工業団地、長浜工業団地
	有田町	有田工業団地、有田南部工業団地、南原工業団地、前原工業団地

(出典)工業団地:「長崎県産業振興財団HP」

## (6)道の駅

種類	市町名	駅名	路線名
道の駅	佐世保市	させぼつくす99	国道497号
	平戸市	生月大橋 昆虫の里たびら	主要地方道平戸生月線、国道204号
	松浦市	松浦海のふるさと館、鷹ら島	国道204号、県道鷹島肥前線
	西海市	西海みかんどーム	主要地方道西彼太田和港線
	東彼杵町	彼杵の荘	国道205号
	伊万里市	伊万里ふるさと村	国道202号

(出典)国土交通省道路局(休憩・情報発信・地域連携機能)

## 4 圏域の都市機能の集積状況

## (7)地域資源

## ①主な地域資源

分野	地域資源
自然	<p>【佐世保市】西海国立公園九十九島、弓張岳、烏帽子岳、虚空蔵岳</p> <p>【平戸市】川内峠、塩俵の断崖、中瀬草原、大賀断崖</p> <p>【松浦市】不老山総合公園、土谷棚田、イロハ島、椿の群生林、龍王の滝、玄海国定公園、青龍の郷</p> <p>【西海市】七ツ釜鍾乳洞、つがね落としの滝、虚空蔵山【佐々町】古川岳遊歩道・展望台</p> <p>【川棚町】川棚町大崎自然公園、虚空蔵山、日向の棚田</p> <p>【波佐見町】鬼木棚田</p> <p>【東彼杵町】多良岳県立自然公園、集団茶園</p> <p>【小値賀町】赤浜海岸、ポットホール、野崎島ワイルドパーク、姫の松原</p> <p>【新上五島町】西海国立公園(若松瀬戸)、蛤浜・高井旅海水浴場、奈良尾のあこう樹</p> <p>【伊万里市】伊万里湾カブトガニ繁殖地、東山代の明星桜、玄海国定公園</p> <p>【有田町】岳の棚田、竜門峡</p>
歴史文化	<p>【佐世保市】黒島の集落、黒島天主堂、福井洞窟、泉福寺洞窟ほか洞窟遺跡等、針尾送信所ほか近代化遺産群、平戸八景、五島神楽(宇久)</p> <p>【平戸市】春日集落、安満岳、中江ノ島、田平天主堂、平戸神楽</p> <p>【松浦市】鷹島神崎遺跡、松浦党梶谷城跡</p> <p>【西海市】中浦ジュリアン記念公園、音浴博物館、ホゲツ石鍋製作遺跡</p> <p>【佐々町】市瀬窯跡、狸山支石墓群</p> <p>【川棚町】片島魚雷発射試験場跡、特攻殉国の碑、木場浮立・百津浮立</p> <p>【波佐見町】畑ノ原窯跡・中尾上登窯跡・智恵治窯跡、皿山人形浄瑠璃</p> <p>【東彼杵町】千綿人形浄瑠璃、坂本浮立、ひさご塚古墳</p> <p>【小値賀町】旧野首教会、沖ノ神嶋神社神官屋敷</p> <p>【新上五島町】頭ヶ島の集落、崎浦の五島石集落と北魚目の文化的景観、青砂ヶ浦天主堂、五島神楽(上五島・有川)</p> <p>【伊万里市】伊万里トントン祭り、脇野の大念仏、府招の浮立、大川内鍋島窯跡</p> <p>【有田町】有田内山重要伝統的建造物群保存地区、泉山磁石場跡、有田大イチョウ、天狗谷窯跡、有田異人館</p>
観光	<p>【佐世保市】ハウステンボス、九十九島パールシーリゾート、九十九島動植物園、山暖簾</p> <p>【平戸市】平戸城、根獅子海水浴場、生月サンセットウェイ</p> <p>【松浦市】つばき荘、ほんなもん体験、星鹿城山</p> <p>【西海市】長崎バイオパーク、伊佐ノ浦公園、北緯33度線展望台</p> <p>【佐々町】皿山公園(窯体験施設)</p> <p>【川棚町】大崎くじゃく園、大崎海水浴場、川棚大崎温泉しおさいの湯</p> <p>【波佐見町】陶芸の館、西の原、波佐見温泉、陶芸の里中尾山</p> <p>【東彼杵町】千綿溪谷、JR千綿駅、歴史公園彼杵の荘、河川公園やすらぎの里</p> <p>【小値賀町】あわび館、野崎島ビジターセンター、野崎島自然学塾村</p> <p>【新上五島町】龍観山公園、鯨見山展望所、矢堅目公園、龍馬ゆかりの広場</p> <p>【伊万里市】伊万里鍋島焼会館、伊万里・有田焼伝統産業会館、伊万里温泉白磁乃湯</p> <p>【有田町】有田ポーセリンパーク</p>
伝統工芸	<p>【佐世保市】三川内焼、佐世保独楽</p> <p>【波佐見町】波佐見焼</p> <p>【小値賀町】小値賀焼</p> <p>【伊万里市】伊万里・鍋島焼</p> <p>【有田町】有田焼</p>

分野	地域資源
特産物	<p>【佐世保市】世知原茶、九十九島かき、九十九島いりこ、九十九島とらふぐ、西海みかん、長崎和牛</p> <p>【平戸市】あご、ひらめ、ウチワエビ、いか、菌床しいたけ(平戸ロマン)、アスパラガス、平戸夏香、かまぼこ、カスドース、平戸牛</p> <p>【松浦市】旬あじ、旬さば、鷹ふく、松浦本まぐろ、福島くるまえび、アールスメロン、キンショーメロン、御厨ぶどう</p> <p>【西海市】ゆでぼし大根、あらかぶ、うず潮カキ、糸べす蛸、西海ポーク、みかん、大島トマト</p> <p>【佐々町】いちご、お茶、シロウオ</p> <p>【川棚町】小串トマト、長崎和牛、川棚なまこ、ひなた米/棚田米</p> <p>【東彼杵町】そのぎ茶、いちご、アスパラガス、みかん、くじら、なまこ</p> <p>【小値賀町】値賀咲/長崎イサキ、実えんどう、落花生</p> <p>【新上五島町】五島手延うどん、椿油、かんころもち、焼酎、海塩、あご</p> <p>【伊万里市】伊万里牛、伊万里梨・ぶどう、車エビ</p> <p>【有田町】キンカン、アスパラガス、棚田米、酒、焼酎</p>

(出典) 各自治体への聞き取り調査

## ②主な文化施設等(図書館は別掲)

市町名	施設名	利用者数(人)	出典年度
佐世保市	アルカスSASEBO	493,118	平成30年度
	市民文化ホール	49,779	平成30年度
	木場浮立資料館兼伝習研修所	237	平成30年度
	博物館島瀬美術センター	106,961	平成30年度
	佐世保史料館(セイルタワー)	62,383	平成30年度
	浦頭引揚記念資料館	9,102	平成30年度
	うつわ歴史館	3,745	平成30年度
	小佐々郷土館	395	平成30年度
	世知原炭鉱資料館	609	平成30年度
	宇久島資料館	217	平成30年度
	少年科学館	58,354	平成30年度
	江迎地区文化会館インフィニタス	15,468	平成30年度
	三川内焼伝統産業会館	16,875	平成30年度
平戸市	松浦史料博物館	26,103	平成30年(暦年)
	平戸市生月町博物館・島の館	19,517	平成30年(暦年)
	平戸オランダ商館	31,259	平成30年(暦年)
	切支丹資料館	4,010	平成30年(暦年)
松浦市	福島歴史民俗資料館	364	平成30年度
	松浦市立埋蔵文化財センター	3,542	平成30年度
西海市	西海市崎戸歴史民俗資料館	3,540	平成30年度
川棚町	川棚町郷土資料館	472	平成30年度
波佐見町	農民具資料館	1,000	平成30年度
東彼杵町	東彼杵町歴史民俗資料館	9,157	平成30年度

## 4 圏域の都市機能の集積状況

市町名	施設名	利用者数(人)	出典年度
小値賀町	小値賀町歴史民俗資料館	1,490	平成30年度
新上五島町	石油備蓄記念会館	80,265	平成30年度
	鯨賓館ミュージアム・ホール	15,688	平成30年度
伊万里市	伊万里市歴史民俗資料館	2,345	平成30年度
	伊万里市陶器商家資料館	2,721	平成30年度
	伊万里・鍋島ギャラリー	3,055	平成30年度
	伊万里市海のシルクロード館	3,460	平成30年度
	伊万里・有田焼伝統産業会館	57,456	平成30年度
有田町	有田町歴史民俗資料館	4,200	平成30年度
	有田焼参考館	4,200	平成30年度
	有田陶磁美術館	5,319	平成30年度
	旧田代家西洋館(有田異人館)	4,031	平成30年度
	焱の博記念堂	66,350	平成30年度
	佐賀県立九州陶磁文化館	50,474	平成30年度

(出典) 公的文化施設・博物館等(各自治体聞き取り調査)

## ③図書館

市町名	公立図書館数	公民館 図書室等数	蔵書数(冊)	年間貸出(冊)
佐世保市	1	27	546,589	1,067,585
平戸市	2	4	227,041	245,565
松浦市	2	6	167,422	108,497
西海市	2	3	192,522	123,487
佐々町	1	0	116,275	137,220
川棚町	0	1	19,308	12,441
波佐見町	1	0	44,664	23,809
東彼杵町	0	1	29,792	12,835
小値賀町	1	0	56,441	16,234
新上五島町	5	0	168,642	135,320
伊万里市	1	2	419,118	425,014
有田町	2	0	75,755	73,770

(出典) 長崎県内自治体はH30年度長崎県立長崎図書館要覧。佐賀県内自治体は聞き取り調査

I  
都市圏ビジョンの概要

II  
圏域の現状

III  
西九州させぼ広域都市圏の将来像

IV  
将来像の実現に向けた具体的取組み

## III

## 西九州させぼ広域都市圏の将来像

## 1

## 目指す将来の姿

## 「あなたが かえるまち 西九州」

～変える・還る・替える～

「変える」＝暮らしや地域をより良く変える  
 「還る」＝他の地域に出たとしても再び圏域に還る場所がある  
 「替える」＝圏域内に住まいを替える

圏域の特徴として、自然が豊かで、個性ある様々な歴史・文化を継承しながら、工業・商業の集積によって発展してきた地域であり、生活の中でも多様性を受け入れることができるユニークさがあります。12の市町がそれぞれ主役となりながらも、相互に圏域住民の生活を支えあえる魅力的な圏域の発展を目指していきます。

## 2

## 将来の圏域人口の目標

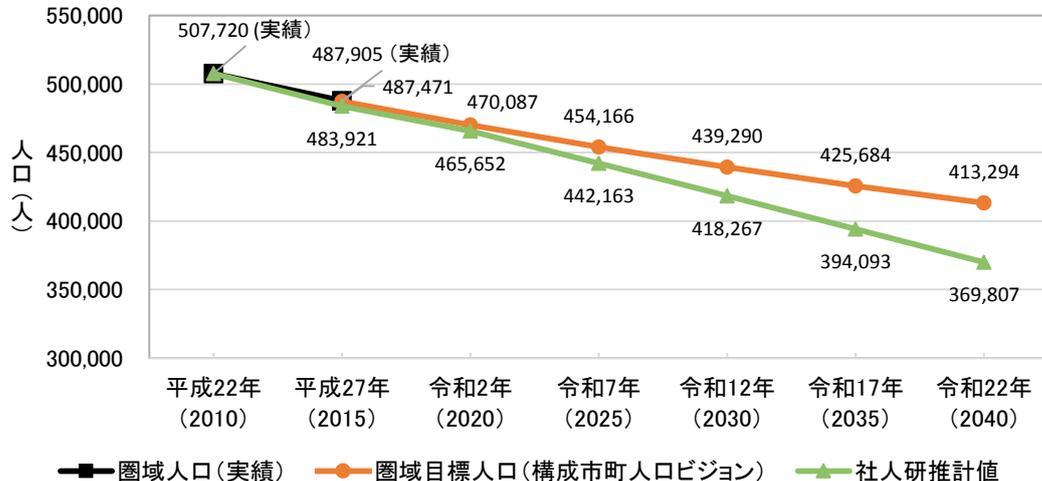
## 西九州させぼ広域都市圏の目標人口

## 2040(令和22)年 41.3万人以上

構成市町が策定している人口ビジョンをもとに、圏域の2040年（令和22年）の目標人口を41万3千人以上と設定します。

社人研推計値と比較し、約4万3千人多くなっていますが、各市町が策定した総合戦略や、当都市圏ビジョンに位置付けた具体的な取組みを推進し、首都圏等の都市部への転出抑制を図っていくことで目標人口の達成を目指します。

〔図表16-1 将来の圏域人口目標〕



(出典)「平成27年国勢調査」、「構成市町人口ビジョン」  
 「国立社会保障人口問題研究所(日本の地域別将来推計人口)」(平成30年3月)

I 都市圏ビジョンの概要

II 圏域の現状

III 西九州させぼ広域都市圏の将来像

IV 将来像の実現に向けた具体的取組み

平成31年 3月 発行  
令和 2年 3月 改訂

発 行：佐世保市

編 集：佐世保市企画部政策経営課

〒857-8585 佐世保市八幡町1-10

Tel : 0956-24-1111 Fax : 0956-25-9676